



大阪市立阿倍野小学校

ようこそ 阿倍野小学校 I C T 公開授業へ

晩秋の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動に何かとご理解・ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、本校では、「ともに学び、自ら学び、学びを深める子どもの育成～学習の基盤となる資質・能力を高める学習の構築～」を研究主題に、ICT 機器を活用した教育活動の実践に取り組んでおります。

この度、「第47回全日本教育工学研究協議会全国大会(大阪大会)」【阿倍野小学校 I C T 公開授業 通算20回目】に多数ご参加いただきありがとうございます。ここに謹んでお礼申し上げます。

I C T 活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立阿倍野小学校長 佐藤 英明

【公開授業@オンデマンド】

主な活用機器…電子黒板、タブレット端末

学年・組	教科等	単元・内容	授 業 者	活用コンテンツ等
1 年 3 組	生活科	いきものとなかよし	松吉 愛子	ロイロノート・スクール
2 年 3 組	国語科	あそび方をせつ明しよう	多々納順子	ロイロノート・スクール
3 年 1 組	国語科	モチモチの木	坂井 敦子 石本 慎二	ロイロノート・スクール
4 年 1 組	社会科	自然災害から命とくらしを守る	山田 真衣 木村 英子	ロイロノート・スクール
5 年 1 組	音楽科	日本の音楽に親しもう	垣成 崇雄	Scratch ロイロノート・スクール
6 年 1 組	算数科	データの特ちょうを調べて判断しよう	別所 英文	Excel ロイロノート・スクール
なかよし学級	生活単元	クラスの友だちに がんばったことを知らせよう	黄本 幸	ロイロノート・スクール

【令和3年11月19日（金）研究協議会@Zoom ミーティング】

(14:30～14:35) ● 学校長挨拶

(14:35～15:00) ● 研究発表「阿倍野小の取り組みについて」

(15:15～15:50) ● 研究協議@Zoom 各授業ブレイクアウトルーム

・ 授業者による授業の振り返り

・ 質疑応答 等

※各授業動画QRコードよりアンケートにご協力ください。

(16:00～16:50) ● 指導助言 講師 園田学園女子大学教授 堀田 博史 先生

(16:50～17:00) ● お礼の言葉

研究の概要



研 究 の 概 要

《研究主題》

ともに学び、自ら学び、学びを深める子どもの育成

～学習の基盤となる資質・能力を高める学習の構築～

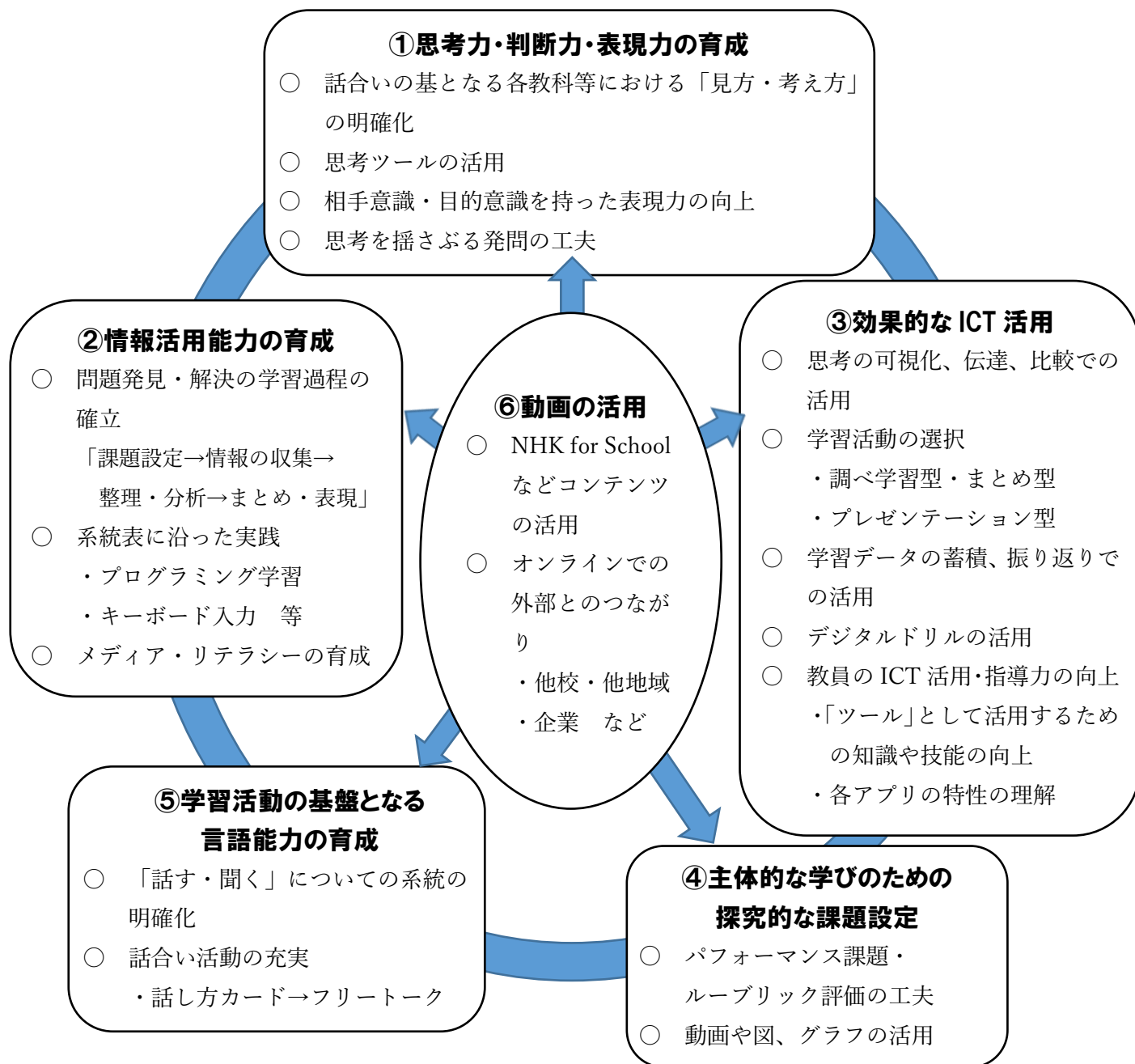
本校では、これまでに子どもたちの主体的な学びを育むため、単元構成や授業の学習過程において問題解決的な学習を取り入れてきました。また、問題解決のために、協働的な学びの場を多く設定し、思考を可視化させ、比較、検討することを通して、コミュニケーション能力も育てながら、さらなる思考の深化を目指してきました。その際に、ICTを有効なツールとして活用し、教科の特性や「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、子どもたちのより有効な活動の中で資質・能力を高められるように研究を進めてきました。

今回の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」がキーワードとして取り上げられています。本校ではこれまでの研究を受けて、「主体的・対話的で深い学び」とは、問題解決的な学習を重視し、その中で、学習課題に対して粘り強く取り組み、課題達成を目指すことができる（主体的）子どもを育成する。さらに、学習のプロセスの中にグループディスカッション、ディベート、グループワークなどの方法で協働的な学びを取り入れ（対話的）、その学びの中で、考えの比較や知識の関連づけ、情報の収集・整理・発信など、思考・判断・表現の活動を明確に行い、個々の思考を深化させることができる（深い学び）子どもを育成することだと捉えています。そして、これらの学習活動を行うことで、最終的に一人一人の学びを確かなものにすることができると考え、本主題を設定し研究を進めています。

また、今回の学習指導要領では「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」を「学習の基盤となる資質・能力」とし、教科横断的に育成することについても掲げられています。しかし、これまでの研究で、本校が主体に置く協働的な学びの中の話合い活動では、その学年までにつけておくべき「話す・聞く」の力が育っていないと話合いそのものが充実したものにならないこと、学習過程を改善するためには、インターネットや動画などから必要な情報を読み解く力が必要なこと、子どもたちが問題を主体的に追究していくためには、課題設定の工夫が不可欠であることが、課題として挙がりました。そこで、「学習の基盤となる資質・能力」の3つの力を育成していくために次の6つの視点を設定しました。

《研究の視点【協働的な学びを通して、個の学びを確かにするために】》

それぞれの授業の中で、対話的な学びを生み出すために協働的な学びの場を必ず設定する。学年の子どもたちの発達段階に応じて学習内容を考え、ペアトーク・グループワーク・ジグソー法など様々な協働的な活動形態を取り入れる。協働的な学びを行うことにより、自分の考えと友だちの考えを比較したり、友だちの考えを取り入れたり、自分の考えをより確かなものにしたりできることを目指す。



視点①

思考力・判断力・表現力の育成

話合いの質を高めるために、指導者が活動のねらいを明確にして、「見方・考え方」を設定するようにする。「見方」として、子どもたちの話合いの中で学習課題の解決に向けて着目させたいキーワードとなる視点を、「考え方」として、課題解決に向けて学習した内容を比較したり、関連付けたり、分類したりするなど、どのように思考すればよいのかを、指導案に次のように示している。

【昨年度 3年理科学習指導案「風やゴムのはたらき」より】

協働の場面	○ ギュムを引く長さを変えて車の動く距離を計測し、グラフにまとめた結果から物を動かす力の大きさの変化について交流する。
見方・考え方	○ ギュムが物を動かす力の様子を、 <u>ギュムの力と車が動く距離の関係に着目して捉える。</u> ○ <u>実験の条件と結果を比較すること</u> で、ギュムの力の大きさを変えると物が動く様子との関係について思考する。

視点

思考方法

また、指導案の展開には「見方・考え方を働かせる手立て」を位置づけている。そうすることにより、指導者は、それぞれの場での子どもたちの動きを具体的に想定することができるため、支援も的確なものとなり、子どもたちが、問題解決に向けて質の高い話合いができるようになると思う。

財団法人パナソニック教育財団「思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット」掲載の思考スキルを活用してもらい、どのように話合いの中で思考するかといった「思考方法」を明確にする。その際、思考が整理できるよう、思考ツールの活用も目指す。また、話し合ったことを誰に、どのように伝えるのか等、「表現の方法」も明確に示すようにする。授業構築の際には、児童の思考を揺さぶる発問を設定し、問題解決的に学習を進められるようにする。

思考スキル	意味	時期
理由づける	意見や判断の理由を示す	小学校段階
順序立てる	視点や観点をもちて順序付けする	小学生段階
筋道立てる	物事を順序や構成に従って記述する	中学年以降
変化をとらえる	視点や観点を定めて変化を記述する	中学年以降
構造化する	順序や筋道、部分同士の関係を計画する	中学年以降
具体化する	学習事項に対応した具体例を示す	中学年以降
抽象化する	事例からきまりや包括的な概念をつくる	中学年以降
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する	高学年
変換する	表現の形式（文・図・絵など）を変える	全学年
関係づける	学習事項同士をつなげて示す	全学年
関連づける	学習事項と実体験・経験をつなげて示す	全学年
広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる	全学年
焦点化する	重点を定めたり軽重をつけたりして注目する対象を決める	全学年
見通す	行為の効果や影響についてのイメージをもつ	全学年
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する	全学年
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単ににする	全学年
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ	全学年
多面的にみる	多様な視点や観点にたつて対象を見る	全学年
比較する	物事を類比・対比することができる	全学年
分類する	属性に従って複数のものをまとまりに分ける	全学年

2012.3月

出典：財団法人パナソニック教育財団「思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット」

【2019 年度の実践】



6年道徳科「友情や責任について考える」
・主人公の葛藤理由を視点ごとに思考ツールに整理し、主人公の考えを多角的・多面的に捉える。



4年算数科「およその数の表し方を考えよう」
・数直線を活用し、四捨五入する前の数と概数を関係付けて、もとの数の範囲について思考する。

【2020 年度の実践】



3 年社会科「安全な暮らしを守る」
・学習してきた内容を生かし、安全に暮らすために自分たちにできることを考え、具体化する。



5 年社会科「これからの食料生産とわたしたち」
・日本の食料生産を高めるために必要な取り組みについて、思考ツールに分類整理して、多角的に考える。

視点②

情報活用能力の育成

本校では、子どもたちの情報活用能力の向上を目指して、従来の「情報活用の実践力」・「情報の科学的な理解」・「情報社会に参画する態度」の 3 観点ごとに「情報活用能力系統表」（別紙）を作成した。これに沿って各学年が授業実践を行い、各教科・領域の中で、正しく必要な情報を読み解く力やそれらを活用する力を養うことによって、問題発見から解決に至る学習過程の中で応用できるようにする。

情報活用能力系統表		情報活用の実践力		
3 観点	8 要素	大項目	中項目	4 年
情報活用の実践力	受け手の状況などを踏まえた発信・伝達	考えの表現と発信	自分の考えや感想を新聞やポスターにまとめ、相手に表現・発信することができる。	自分の考えや感想を新聞やポスターにまとめ、相手に表現・発信することができる。
			国語「みんなで新聞を作ろう」Ⅱ	国語「みんなで新聞を作ろう」Ⅱ

番組（NHK for School「しまった！～情報活用スキルアップ～（第 9 回 新聞を作る）」）を視聴し、読みに手に情報を伝えやすくする工夫を捉え、よりよい新聞記事の内容について考える。

（情報活用能力系統表 一部抜粋）



また、プログラミング的思考を養うために、低学年では順次処理、中学年では反復処理、高学年では、分岐処理やセンサーについて、プログラミング学習に取り組んでいる。文字入力 of 技能を高めるために、3 年生以上の学年で朝学習や昼学習の時間に「キーボードチャレンジ」も実践している。

【2019 年度の実践】

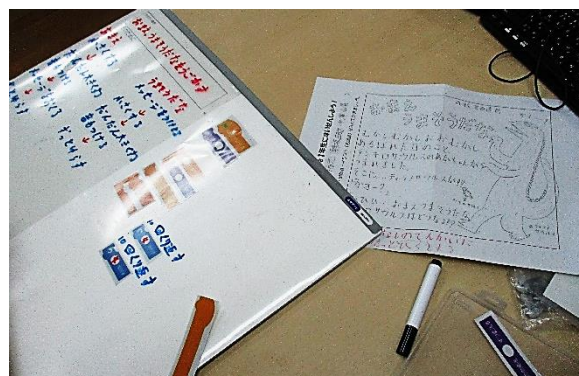


1 年算数科「みちすじをかんがえよう」
・地域の人に手紙を届ける道筋をペアで話し合っ
てカードを並べ替えながらプログラムを考える。
(True True)



6 年算数科「比例と反比例」
・既習内容を活用し、ペアで比例の関係を表す
グラフのプログラムを考える。(Scratch)

【2020 年度の実践】



6 年総合的な学習の時間「1 年生とつながろう～動く POP で絵本を紹介しよう～」
・これまでに習得した処理を応用し、どのように動かせば本の魅力を伝えることができるかについて話し合い、記号化する。(Scratch)



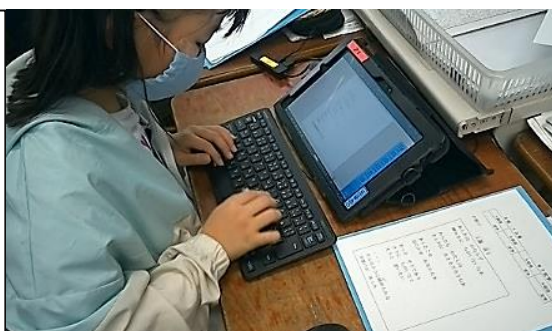
【キーボードチャレンジ】

**キーボードで文字入力
5分間チャレンジ**

朝の時間・チャレンジタイム

年 組 名 前 []

- ①タブレット（キーボード）の準備・心の中で詩を読む
- ②全員で声をそろえて詩を音読
- ③詩を5分間キーボードでローマ字入力（全部入力できたら2回目）
- ④片付け

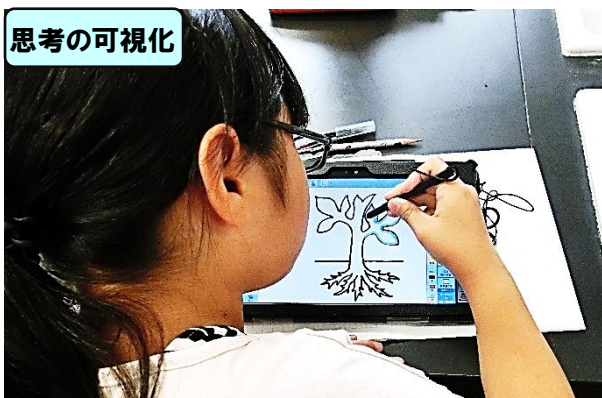


視点③

効果的な ICT 活用

これまでに本校が進めてきた、「思考の可視化」・「思考の伝達」・「思考の比較」の場面での ICT の活用を引き続き行い、その力を更に培っていく。また、学習スタイルによって、子どもたち自身が ICT 活用の型を選択したり、学習の中で得たことを振り返りで再度活用したりすることができるようにする。基礎基本の定着を図るためのデジタルドリルの活用、タブレット端末の持ち帰り学習など、個別最適化学習も目指す。また、子どもたちが ICT を当たり前の「ツール」として活用するために、指導者自身の ICT 活用能力を高める研修を行っている。

【2019 年度の実践】



思考の可視化

6 年理科「植物のつくりとはたらき」
・葉まで届いた水の行方について、発表ノートに図を描いて予想する。



思考の伝達

2 年国語科「おもちゃ教室をひらこう」
・グループごとに、作り方カードとスライドを電子黒板に提示し、発表する。



思考の比較

3 年理科「風やゴムのはたらき」
・各班の結果を発表ノートの合成機能を使って示しながら比較し、考察する。



蓄積データの活用

5 年社会科「自動車づくりにはげむ人々」
・前時までの「まとめノート」（発表ノート）を振り返りながら、日本の自動車づくりの魅力について、考える。

【2020 年度の実践】

思考の可視化



5 年社会科「これからの食料生産とわたしたち」
・NHK for School の動画クリップから得た情報を班のメンバーにわかりやすく伝えるために、画像や文字でまとめる。

思考の伝達



2 年国語科「ニャーゴ」
・デジタルワークシートにまとめた個人の考えを班のメンバーでグループ化し、伝え合う。

思考の比較



4 年算数科「計算のきまり」
・問題に対して考えた個人の式を班で比較し、共通点や相違点を見つけ、より条件に合う組み合わせについて考える。

蓄積データの活用



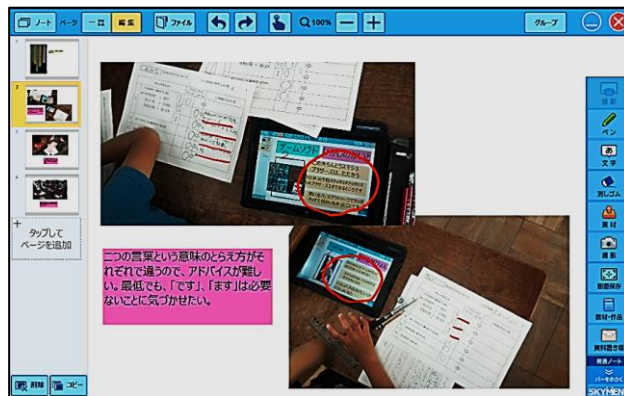
3 年社会科「安全なくらしを守る」
・安全を守るための施設の画像など、学習でまとめた資料を活用し、自分の考えを発表ノートにまとめる。

【教員の ICT 研修】

- ・基本研修… 年度当初（4 月）に、転任者を対象に機器操作、研究内容、活用例の研修を実施。
- ・ミニ研修… ICT 支援員を中心に、新しいアプリの使用方法や既存のアプリの活用例をニーズに合わせて研修を実施。（不定期）
- ・活用研修… 各学年の指導者が授業で活用してきた内容・方法を実践報告形式で交流。
- ・授業構想案検討… 公開授業の個人の構想について、ICT をどのように活用するのか、効果的な活用になっているか、深い学びにつながっているかを全員で検討。（その際には、園田学園女子大学教授 堀田博史先生にご指導いただいている。）その後、指導案を作成・検討。
- ・プレ授業… 公開授業や校内研究授業のプレ授業をほぼ全員が参観。発表ノートを活用しそれぞれが考えた改善点や修正点について共有。（教員の活用能力も自然に高まっている。）



(授業構想案検討)



(プレ授業)

視点④ 主体的な学びのための探究的な課題設定

動画や図、グラフを活用して子どもたちとともに課題を設定したり、学習したことを総合的に活用できるパフォーマンス課題を設定したりして、子どもたちが学習に対して、「やってみたい」、「解いてみたい」と意欲を高め、さらに、単元を通して学習意欲や目的意識を持続させることができるようにする。パフォーマンス課題に対しては、ルーブリック評価も設定し、児童も指導者も学習活動を振り返ることができるようにする。

【パフォーマンス課題】

(事例1) 4年総合的な学習の時間「救え！大阪府の産業」

『ぶどう農家の人の役に立つゆめのロボットをつくろう』

- ・社会科で学習したぶどう農家の人の悩みを解決できるようなロボットのプログラムを考える。

(事例2) 5年社会科「自動車づくりにはげむ人々」

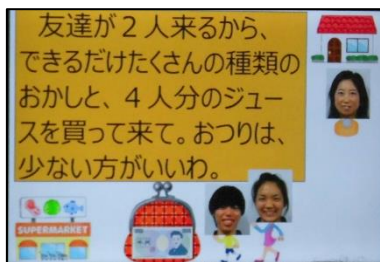
『日本の自動車づくりの魅力を外国の人にアピールしよう』

- ・自動車工業で学習した内容を応用し、自動車工業に携わっている人々が、消費者の多様な需要や環境に配慮しながら優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることをプレゼンテーションする。

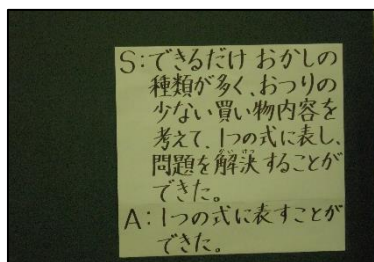
(事例3) 4年算数科「計算のきまり」

『条件に合う買い物内容を1つの式に表そう』

- ・計算の順序に関するきまりについて学習した内容を活用し、買い物の代金や種類などを条件としながら、できるだけ種類が多く残金が少なくなる買い物の内容を考える。



(パフォーマンス課題)



(ルーブリック評価)

視点⑤ 学習活動の基盤となる言語能力の育成

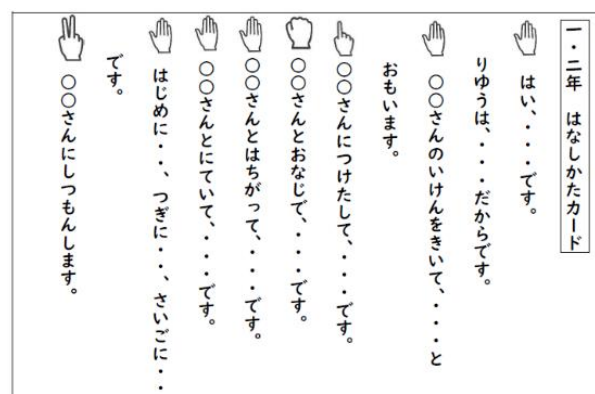
各学年の学習内容を活かして対話できるようにするために、国語科の〔思考力・判断力・表現力等〕の、「A 話すこと・聞くこと」に焦点をあて、「話す・聞く」力に関する系統性を意識して指導に取り組む。

		低学年の キーワード	■手立て ●話形	中学年の キーワード	■手立て ●話形	高学年の キーワード	■手立て ●話形
話し合う力	話し合いの進め方の検討	○互いの話への関心 ○相手の発言を受けて話をつなぐこと	●～さんに付け足して ●～さんと同じで ●～さんとは違って ●～さんと似ていて	○目的や進め方を確認 ○司会などの役割 ○互いの意見の共通点や相違点 ○考えをまとめること	■司会カード ●～さんと同じで ●～さんとは違って ●～ということでもいいですか。	○互いの立場や意図の明確化 ○計画的な進行 ○考えを広げたりまとめること	●～という立場ですが ●～にも使えると思います。 ●～ということでもいいですか。
	考えの形成						
	共有						

（「聞く・話す・話し合う」系統表 一部抜粋）

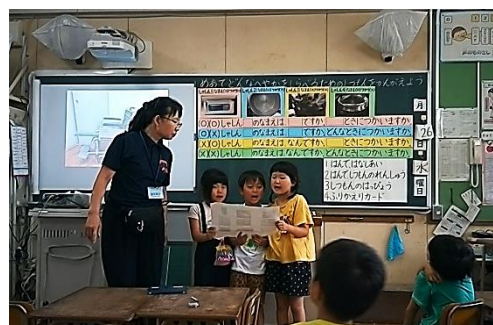
また、話し方カードを活用し、低学年では話をつなぐ、中学年では互いの意見の共通点や相違点に着目する、高学年では互いの立場や意図を明確にするなどして、話し合い活動を充実させ、個の考えが深まるようにする。

指導案には、「見方・考え方」と同様にその時間に行わせたい「言語活動」についても示し、子どもたちに話し合いの中で取り組ませている。



【昨年度 1 年生活科学習指導案「あべしょう だいすき」より】

協働の場面	○ 前回の学校探検で撮影した写真を活用し、インタビューする際の質問について話し合う。
見方・考え方	○ 施設の役割を明らかにするための質問を、施設の物品に着目して捉える。 ○ 物品の名前や使用に関して知っていることと知らないことに分類し、施設の役割を明らかにするための質問について思考する。
言語活動	○ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを <u>落とさないように集中して聞く。</u> ○ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて <u>話をつなぐ。</u>



視点⑥

動画の活用

NHK for School の番組や動画クリップ、インターネット上のアーカイブ等を活用して、課題設定や学習計画づくりに活用したり、児童の思考を揺さぶったり、知識を養ったりするなど、指導者が目的を持って学習過程の改善をすすめる。また、大阪市内の学校や他地域の学校、企業のゲストティーチャーとオンラインでつなぎ、学習内容の理解を深めたり、さまざまな考えに触れて多角的・多面的に考え、思考を再構築させたりすることができるような授業展開を模索する。


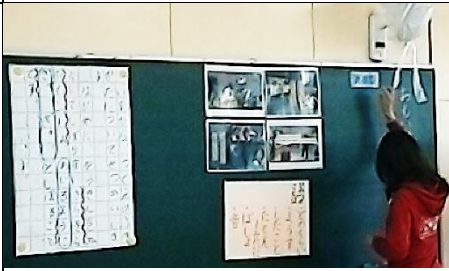



(昨年度までは、NHK for School の活用のみ)

【2019 年度の実践】

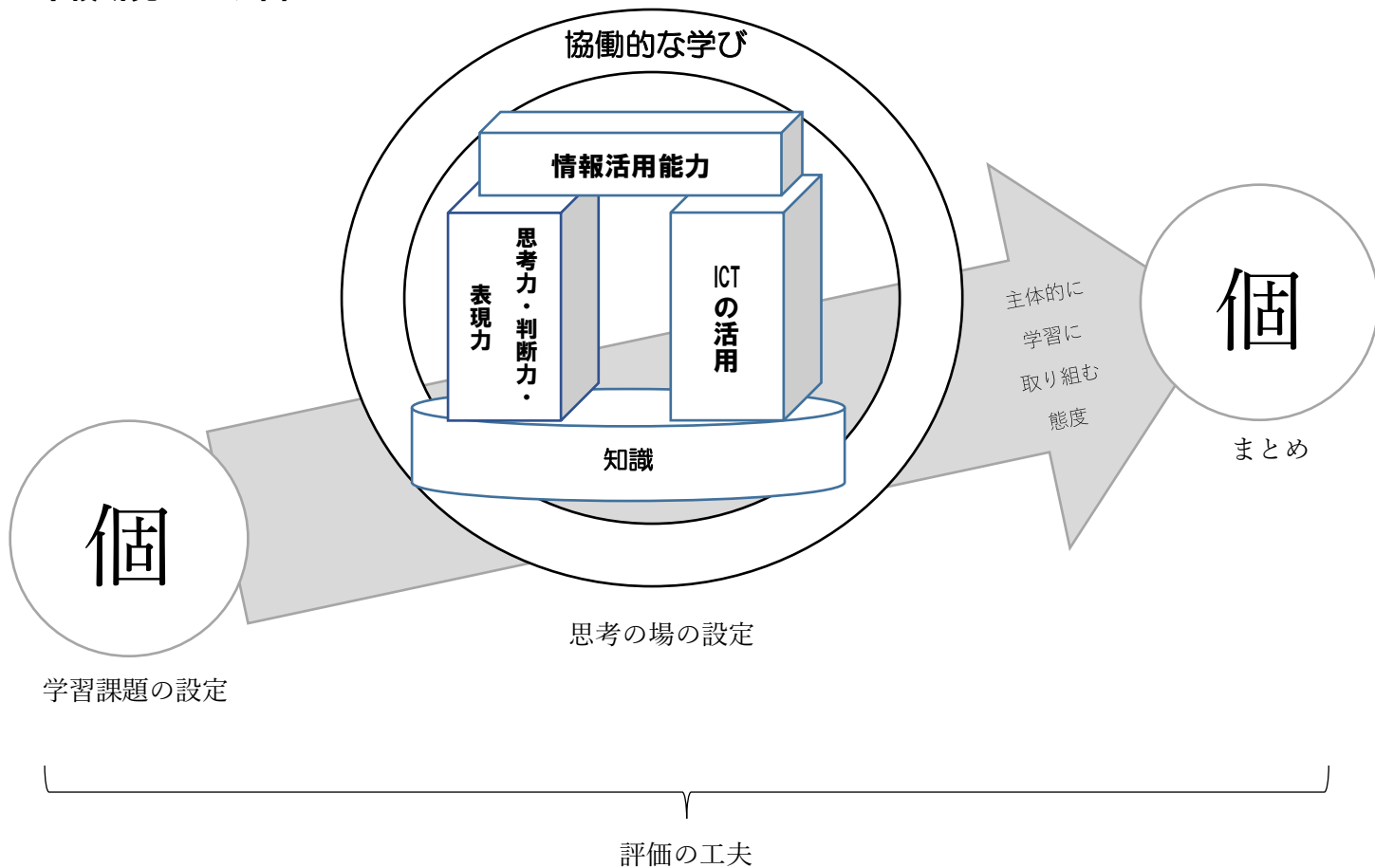
学年・教科・単元	視聴番組	授業展開
6 年理科 「植物のつくりとはたらき」	 <p>「ふしぎエンドレス (第 6 回 葉で使われなかった水は?)」 【継続視聴】</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・葉まで届いた水の行方を予想したり、実験方法を話し合ったりする。
6 年道徳科 「友情や責任について考える」	 <p>「ココロ部! (第 9 回 最後のリレー)」 【継続視聴】</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の葛藤理由について、班で話し合い、多面的・多角的に捉え、自己の考えを深める。
1 年生活科 「あべしょう だいすき」	 <p>「おばけの学校たんけんだん (第 1 回 わくわく学校たんけん)」</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・番組と自分たちの学校探検の方法を比較し、探検した施設の役割を明らかにするための質問を考える。

<p>4 年国語科</p> <p>「みんなで新聞を作ろう」</p>	 <p>「しまった！～情報活用スキルアップ～（第9回 新聞を作る）」</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・番組に出てきた新聞をどのように変えれば読み手に情報を伝えやすくすることができるか、考える。
<p>3 年音楽科</p> <p>「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」</p>	 <p>「おんがくブラボー（第9回 せんりつづくりはこわくない!）」</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律づくりのポイントを知り、「ソラシ」の3音を使って旋律をつなぎ、まとまりのある音楽をつくる。
<p>4 年算数科</p> <p>「およその数の表し方を考えよう」</p>	 <p>「さんすう刑事ゼロ（第12回 「四捨五入」の心理トリックに気をつけろ～がい数～）」</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・番組の問題場面を捉え、四捨五入して、概数にする前の数と、もとの数の範囲について考える。
<p>5 年社会科</p> <p>「米作りのさかんな地域」</p>	 <p>「未来広告ジャパン！（第5回 これからの米作り クリップ活用）」</p> <p>【継続視聴】</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・米作りの課題について必要な情報を収集し、米作り農家がこれから米作りを続ける上での不安について話し合う。

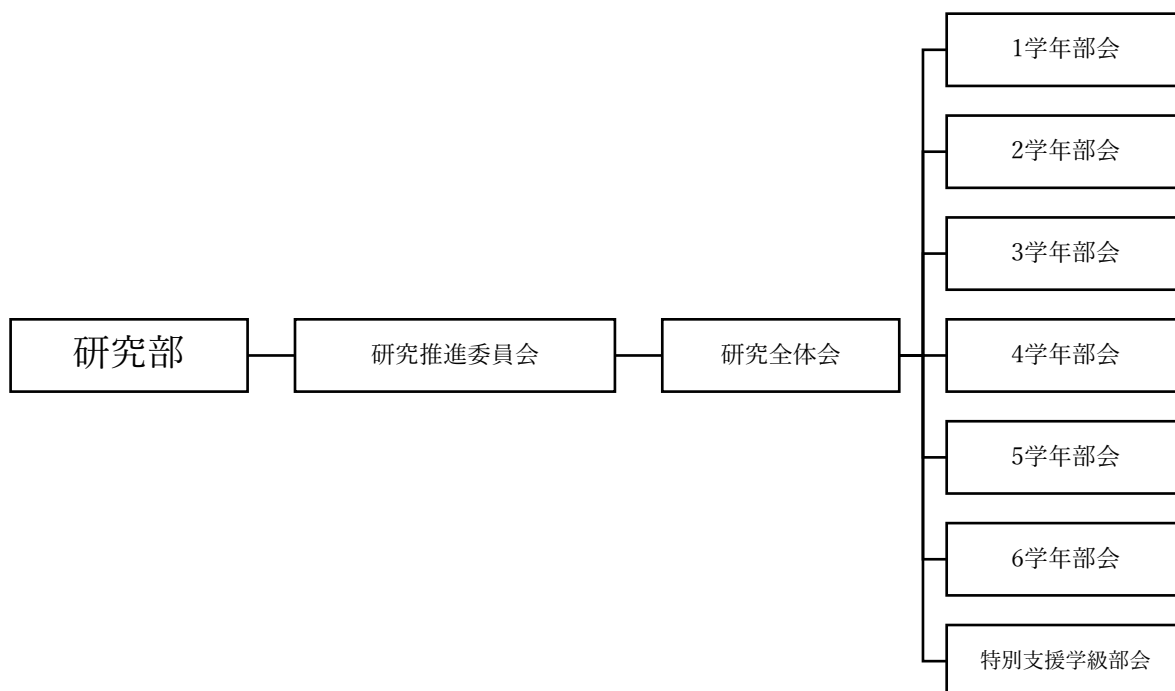
【2020 年度の実践】

学年・教科・単元	視聴番組	授業展開
<p>1 年国語科 「おもい出してかこう ～きらきらぐんぐんだいさくせん～」</p>	 <p>「ことばドリル (第 9・11・12・17 回)」 【継続視聴】</p>	 <p>・今までに視聴してきた内容の写真を提示し、詳しく書くための表現を思い出させる。</p>
<p>3 年社会科 「安全なくらしを守る」</p>	 <p>「コノマチ☆リサーチ (第 15 回 たいせつな“安全”を守る クリップ活用)」 【継続視聴】</p>	 <p>・警察署の仕事やはたらきについて調べ、発表ノートにまとめる。</p>
<p>5 年社会科 「これからの食料生産とわたしたち」</p>	 <p>「未来広告ジャパン! (第 4・5・ 7・8・9 回 クリップ活用)」 【継続視聴】</p>	 <p>・日本のこれからの食料生産について、自分の考えの根拠となる情報を収集し、ロイロノート・スクールのカードにまとめる。</p>
<p>6 年総合的な学習の時間 「1 年生とつながろう ～動く POP で絵本を紹介しよう～」</p>	 <p>「Why!? プログラミング (第 1・3・ 4・5・7・8・9・13・15・16・ 17・18 回)」 【継続視聴】</p>	 <p>・指導者が提示した課題に対し、既習事項を生かして記号の組み合わせを考える。</p>

《本校研究イメージ図》



《研究組織》



視点① 思考力・判断力・表現力の育成

- ワークシートの工夫、番組内容、数直線の利用など、思考活動を行うにあたり、着目して捉えさせたいものを的確につかめるようにすることで、話し合う観点が絞られ、内容が深まった。
- 既習内容を振り返る場面を設定することで、子どもたちが新たな課題に対して既習内容を生かそうとしていた。
- 単元末テストの平均点が上昇した。
- 思考方法を明確にし、思考ツールの活用を図る。

視点② 情報活用能力の育成

- 問題解決の学習過程を設定することで、主体的な課題解決を行うことができた。
- 情報活用能力系統表の「情報活用の実践力」の項目において、子どもたちに必要な力を育成することができた。(2・5年…必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造)、「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」また、「プログラミング」の項目においてそれぞれの学年で目指す知識・技能を育成することができた。(1年…順次処理、6年…順次、反復、分岐処理)
- 教科の中でプログラミング学習を行った際の教科としての目標達成の方法を探る。

視点③ 効果的な ICT の活用

- 指導者が「発表ノート」を教材に合わせてアレンジすることで、話し合いの際の思考の可視化・比較・伝達に有効であった。また、個別の指導にも生かすことができた。
- 子どもたちの ICT 活用の技能をさらに向上させる。

視点④ 主体的な学びのための探究的な課題設定

- NHK for School の番組の活用、学習内容に沿ったパフォーマンス課題の設定、プログラミング学習における条件設定など、課題設定の工夫を行うことで、子どもたちの学習意欲を向上させ、主体的な学習へとつながった。
- 子ども自らが課題を発見・設定できる指導のあり方を探る。

視点⑤ 学習活動の基盤となる言語能力の育成

- 話し方カードを作成し、普段の学習活動から活用を図ることで、その学年の発達段階に応じた表現を用いて、話し合い活動を行うことができた。
- 話型に頼らないスムーズな話し合い活動を定着させる。

視点⑥ 動画(NHK for School) の活用

- 学習活動のモデル、学習のスキル育成のモデルとなった。
- 課題に対して興味を持つことができ、学習意欲が高まった。
- 子どもたちに文章や写真では伝わりにくいことも、具体的に理解させることができた。
- 既習の学習内容を明確につかむことができた。
- NHK for School の番組を主体にした授業展開をより効果のある形で実現していく必要がある。
- 継続視聴することが効果的な番組については、今後も検討を重ねていく。

視点① 思考力・判断力・表現力の育成

- 見方・考え方を明確にして考えさせた後、子どもの思考を揺さぶる発問を取り入れることで子どもたちの課題解決に向けた考えがより深まった。
- 協働的な学びの場での思考ツールの活用をさらに増やし、子どもたちが自ら選択し、当たり前を活用できるようにする。

視点② 情報活用能力の育成

- 順次、反復、分岐処理の体験を積み重ねることで、子どもたちが自ら目的や意図に合わせた活動を行うことができた。(プログラミング学習)
- 授業内でのプレゼンテーションの実施、ローマ字入力練習の継続、情報モラルの定着など、系統表に沿った実践を確実に行う。

視点③ 効果的な ICT の活用

- 学習で作成した資料やまとめを蓄積しておいたことで、子どもたちがいつでも既習事項を振り返ることができた。
- 指導者オリジナルのデジタルワークシートを作成したことで、子どもたちの思考の可視化がよりわかりやすくなった。
- 一人一台端末のより効果的な活用方法を実践研究していく。

視点④ 主体的な学びのための探究的な課題設定

- パフォーマンス課題を設定することで、子どもたちの学習に対する意欲が増し、既習内容を生かして主体的に学習に取り組むことができた。
- パフォーマンス課題の設定に対して、ルーブリックなど評価方法を研究していく。
- どの学年でも取り組んでいけるよう、教科や単元などで系統性を探る。

視点⑤ 学習活動の基盤となる言語能力の育成

- 話し方カードを作成し、普段の学習活動から活用を図ることで、スムーズに話し合い活動を行うことができた。
- 話し合いのパターンを複数経験させ、批判にも慣れさせる。

視点⑥ 動画(NHK for School) の活用

- 番組を活用することで、学習内容に見通しをもって計画を立てることができた。
- 動画クリップを活用することで、知識・理解を深めたり、課題解決に必要な情報を収集したりすることができ、学習活動の幅が広がった。
- オンラインを活用した外部とのつながりを模索していく。

公開授業



指導案

第1学年 生活科 学習指導案

授業者 松吉 愛子

- 1 学年・組 第1学年3組 26名
- 2 場 所 1年3組教室
- 3 単 元 名 「いきものとなかよし」
- 4 目 標

- 身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気づくことができる。
- 身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。
- 身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気づいている。</p> <p>生き物の様子を写真や動画で記録したり、関連する図書などの資料から必要な情報を見つけたりして、生き物の世話に必要な情報を収集している。</p>	<p>身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。</p> <p>生き物の様子を観察し、生き物に合わせた世話をしている。</p> <p>これまでの体験や図書などで調べたことをもとによりよい世話の仕方を考え、表現している。</p>	<p>身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。</p> <p>互いの話をよく聞き、生き物の飼育などの話題に沿って話し合おうとしている。</p>

6 指導計画（全11時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1・2	<ul style="list-style-type: none"> 知っている生き物について伝え合う。 校庭で生き物を探したり、観察したりする。 カブトムシとなかよくなる（観察・飼育する）ことを知らせ、すみかや餌、体の様子などについて知っていることを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型モニターに様々な生き物の写真を提示し、生き物のすみかや餌、体の様子について興味関心が高まるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシの様子を観察し、カブトムシに合わせた世話をする中で、気がついたことを写真で記録する。 関連する図書からカブトムシのすみかや餌、体の様子などについて調べ、飼育に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシに合わせた世話をする中で、カブトムシが変化していることや生命をもっていることに気づくことができるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシの世話をする中で、飼育環境や飼育方法について気がついたことをまとめ、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 気づきをロイロノート・スクールのカードに写真を貼り付けたりマーキングしたりしながらまとめ、視覚的に伝えやすくする。 大型モニターに発表者のカードを提示することで、説明内容をつかみやすくする。
2	5	<ul style="list-style-type: none"> カブトムシ以外になかよくなりたい生き物を伝え合い、世話をする生き物を決める。 カブトムシの飼育を思い出して、その生き 	<ul style="list-style-type: none"> 大型モニターに様々な生き物の写真を提示し、興味・関心が高まるようにする。 カブトムシの観察や世話をする中で撮影した

		物のすみかや餌を予想する。	写真や気づいたことを振り返りながら、生き物のすみかや餌について想像を広げられるようにする。
	6・7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話をする中で、体の特徴や様子、すみかや餌について気づいたことを写真で記録する。 ・関連する図書やNHK for Schoolの動画クリップ等からよりよい飼育に必要な情報を集め、日々の世話に活かす。 ・調べた内容、観察記録を「いきものとなかよしブック」としてまとめ、発信する見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録した様々な情報を適宜振り返り、グループでよりよい飼育方法を考えることができるようにする。
3	9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話をする中での気づき、関連する図書、Web上から集めた情報などをもとに、飼育方法の工夫を考え、話し合う。 ・考えた飼育方法の工夫をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールの共有ノートを活用し、工夫について話し合うことができるようにする。 ・様々な資料を関係づけて思考を深め、工夫とその理由を明確にして表現できるようにする。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話をする中での気づき、関連する図書、Web上から集めた情報などをもとに、飼育環境の工夫を考え、話し合う。 ・考えた飼育環境の工夫をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた工夫を、ロイロノート・スクールのカードに写真を貼り付けたりマーキングしたりしながらまとめ、視覚的に伝えやすくする。 ・大型モニターに発表者のカードを提示することで、説明内容をつかみやすくする。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの観察記録・飼育方法の工夫を「いきものとなかよしブック」としてまとめる。 ・「いきものとなかよしブック」を交流したり他学年に発信したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの観察記録、飼育環境、飼育方法の工夫などを共有することで、様々な生き物を大切にしたいという気持ちが高まるようにする。 ・「いきものとなかよしブック」を学内共有フォルダに入れ、学級・学年で共有できるようにする。(他学年への発信は、図書室へ掲示予定)

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他()
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他()
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(大型モニター・授業用PC)
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	<input type="radio"/> ロイロノート・スクールの共有ノートを活用することで、個々の気づきや集めた情報(動画や写真など)を出し合い、グループ全員でよりよい飼育方法について話し合うことができるようにする。 <input type="radio"/> 大型モニターにグループで作成したカードを提示することで、説明内容をつかみやすくする。

(1) 目 標

- 飼育してきた生き物が好む餌は何かを考え、どのようなことに留意して与えればよいのかを考えることができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 個々の気づきや調べた情報を出し合い、生き物のよりよい飼育方法について話し合う。
見方・考え方	○ 餌を食べている様子に着目して、生き物が好んで食べる餌を捉える。 ○ これまでの気づきや関連する資料を関係づけて、生き物のよりよい飼育方法について思考する。
言語活動	○ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ○ 飼育方法の工夫と理由の関係を明確にして表現する。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 今までの飼育を思い出し、「いきものとなかよしブック」をつくるために、情報を整理し、まとめていくという見通しをもつ。 ○ 気づきや写真、動画などの情報を、Yチャート（すみか、えさ、そのた）に分類する。 ○ 3つの分類の中から餌について、まとめていくことを確認し、本時の学習課題をつかむ。	◎個人が記録してきた情報を、共有ノート上のYチャートで分類することで、飼育方法に着目できるようにする。 ◎大型モニターに今までにあげた餌の写真を提示し、これまでの飼育を振り返ることができるようにする。	授業用PC タブレット 端末 大型 モニター	
	どなたたべものがすきなかな			
展 開	○ これまでの気づきや調べたことから、一番好きな餌は何か話し合い、カードにまとめる。	☆餌の減り具合(写真)に着目させたり、観察記録に書かれた餌を入れた時の生き物の様子を想起させたりすることで、生き物が好んで食べる餌を捉えさせる。 ◎共有ノート上でカードを操作することで、それぞれが調べたことを振り返りながら、話し合うことができるようにする。 ◇互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合えるようにする。 ◎ロイロノート・スクールのカードに写真を貼り付けたりマーキングしたりしながらまとめ、視覚的に伝えやすくする。	タブレット 端末	【主体的に学習に取り組む態度】 ・互いの話をよく聞き、生き物の飼育などの話題に沿って話し合おうとしている。 (行動観察)

展 開	<p>○ 餌を与えるときに工夫したポイントにマーキングをする。</p>	<p>☆生き物が餌を食べている写真を手がかりに、餌を与えるときに留意したことを捉えさせ、飼育の工夫について思考を深めることができるようにする。</p> <p>◇餌を与えるときに工夫したポイントにマーキングすることで、飼育方法の工夫と理由の関係を明確にして表現できるようにする。</p>	<p>タブレット端末</p> <p>【思考・判断・表現】 ・これまでの経験や図書などで調べたことをもとによりよい世話の仕方を考え、表現している。 (行動観察、ロイロノート・スクール)</p>
ま と め	<p>○ 一番好きな餌、工夫したいポイントを全体で交流し、生き物によってさまざまな留意点があることをおさえる。</p>	<p>◎大型モニターにグループで作成したカードを提示することで、説明内容をつかみやすくする。</p>	<p>大型モニター 授業用PC タブレット端末</p>

(4) 板書計画

めあて どんなたべものがすきなのかな。

1ばんすきなえさは...

へりぐあい

すぐちかよる

カタツムリ
・ニンジン

スズムシ
・キュウリ

コオロギ
・ナス

ウサギ
・ニンジン

メダカ
・パンのこな

犬・ネコ
・キャベツ

キンギョ
・ごはんつぶ

すきなえさをどうやってあげればいいのかな。

- 小さくきる
- きったところを上にする
- たべのこさないくらい
- …くさるから

まとめ

いきものによって、きをつけることがちがう。

- ・しゅるい
- ・あげかた
- 【 ・りょう
- ・大きさ

大型モニター

	投影内容
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の写真 ・Yチャート
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・Yチャート（分類済） ・児童の作ったカード
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作ったカード

第2学年 国語科 学習指導案

授業者 多々納 順子

- 1 学年・組 第2学年3組 27名
- 2 場 所 2年3組教室
- 3 単 元 名 「あそび方をせつ明しよう」
- 4 目 標

○ 遊び方を説明する文章を書き、読み返したり友達と読み合ったりして、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っているとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ ◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 	これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって進んで文章を読み返して、間違いを正したり語と語や文と文との続き方を確かめたりしながら、説明する文章を書こうとしている。

6 指導計画（全10時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを作って遊んだ経験を話し合う。 ・1年生に、自分たちが作ったおもちゃで遊んでもらうために、遊び方を伝える文章を書くという学習課題をつかむ。 ・学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で取り組んだ「おもちゃランド」の写真や動画を見ることで、どんなおもちゃを作ったか、どのように遊んだか思い出させることができるようにする。 ・おもちゃで遊んでいる動画や遊び方を説明した文章を見ることで、1年生に遊び方を説明するための文章を書く活動に興味・関心をもつことができるようにする。 ・教材文を読むことで、文章を書くための学習の進め方を学級全体で確かめることができるようにする。

2	2	<ul style="list-style-type: none"> 教材文のカード例を見ながら、カードの書き方を確認する。 全員が作ったおもちゃ「はねバッタ」を取り上げ、遊び方を説明するために必要な事柄(順序・こつ・気を付けること)をカードに短い文で書く。(個人) 教材文の「石川さんのカード」の上と下を比べて、遊び方の説明に必要な事柄やカードの整理の仕方を話し合う。 「はねバッタ」の遊び方について個人で考えたカードをまなボードに出し合い、グループで取捨選択したり並べ替えたりして整理しながら、分かりやすい説明の順序を話し合う。 <p>○順序良く並べる。 ○同じものは重ねる。 ○似ているものは、新しい文にまとめる。 ○関係ないものは、省く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の「石川さんのカード」から、1枚のカードは1文で書くことを確認できるようにする。 遊び方の順序を動画で確認しながらカードに書くようにする。 一文で、簡単に明確な言葉で5, 6枚のカードに書くようにする。 教材文の「石川さんのカード」で、上のカードと下のカードが違うのはなぜかを考えることで、説明するために必要な事柄を捉えることができるようにする。 班で出し合ったカードを取捨選択したり追加したりしてわかりやすい説明の順序を検討することを確認できるようにする。 1年生が楽しく遊べるように、こつや注意することにも着目できるようにする。 説明するために必要な事柄やまなボードを使った話し合いの仕方を電子黒板に提示し、いつでも確認できるようにしておく。 できた構成表は、タブレット端末で写真を撮っておく。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 教材文「石川さんの文しょう」と「石川さんのカード」を読んで比べ、カードに書いた内容をどのように文章にしているかを確認める。 教材文「石川さんの文しょう」を読んで、分かりやすく説明するために、どのように事柄をつないで書いているかを話し合う。 分かりやすく説明する文章を書くときに気を付けることを振り返る。 カードに書いたことをもとに、遊び方を説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「～する。」から「～します。」等、文末表現の違いに着目できるようにする。 カードに書いた順序に沿って説明していること、「まず」「つぎに」「それから」等の順序を表す言葉を使っていること、カードに付け加えられている言葉があること等に気づくことができるようにする。 構成表をタブレットで確認しながら、文章を書くようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み返して確かめるときの視点を、教科書を見ながら確認する。 遊び方を説明する文章を声に出して読み合い、書き直したほうが良いところ(脱字、句読点、漢字)や、1年生に伝わる表現になっているか話し合う。 推敲しあった箇所を手直しし、文章を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み返す視点として、次のことを確認できるようにする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 誤字脱字がないか ② 句読点がついているか。 ③ 学習した漢字が使えているか。 <ul style="list-style-type: none"> 各自が書いた文章が1年生に分かりやすく、正しい表現になっているか考えながら聞くことができるよう、聞く時の視点を掲示する。 話し合ったことをもとに、文章を書き直すことができるようにする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った遊び方の構成表をもとに、順序に沿った写真や動画を撮る。 ロイロノート・スクールに、遊びを説明するためのスライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに共有した順序に合った写真や動画を撮るようにする。 出来上がったスライドは、班ごとに確認してから提出する。
3	6	<ul style="list-style-type: none"> 班の遊び方を説明するために必要な事柄(順序、こつ、気を付けること)を、1文でカードに書く。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> 「おもちゃランド」で遊んだ様子を撮影した動画を視聴し、遊び方を思い出すことができるようにする。 1枚のカードには1文で書くことを確認できるようにする。

			<ul style="list-style-type: none">遊び方の順序を動画で確認しながらカードに書くようにする。
7 (本時)	<ul style="list-style-type: none">遊ぶ時の順序について、個人で考えたカードをまなボードに出し合い、グループで取捨選択したり並べ替えたりして整理しながら、分かりやすい説明の文章になるような構成を話し合う。活動が円滑にできるように役割分担をする。 ①司会②タブレット操作③カード操作④新しいカード作成各班の説明する文章をみて、参考にしたい表現を共有する。		<ul style="list-style-type: none">動画を見ることで、遊んだ時の様子を思い出し、あそび方の順序を考えた話し合いができるようにする。文章の構成を考えるときの視点（順序よく、重ねる、まとめる、省く）をいつでも確認できるよう提示しておく。1年生が分かる表現の仕方に着目して話し合うことができるようにする。
8	<ul style="list-style-type: none">遊びの順序にこつ、気を付けることを加え、構成メモを完成させ全体の説明文を書く。分かりやすく説明する文章を書くときに気を付けることを振り返る。カードに書いたことをもとに、遊び方を説明する文章を書く。		<ul style="list-style-type: none">構成メモ（画像）を共有し、確認しながら文章を書くようにする。「～する。」から「～します。」等、文末表現の違いに着目できるようにする。カードに書いた順序に沿って「まず」「つぎに」「それから」等の順序を表す言葉を使って書くことができるようにする。
9	<ul style="list-style-type: none">書いた文章を読み返して確かめるときの視点を、教科書を見ながら確認する。遊び方を説明する文章を声に出して読み合い、書き直したほうが良いところ（脱字、句読点、漢字）や1年生に伝わる表現になっているか話し合う。推敲しあった箇所を手直しし、文章を完成させる。		<ul style="list-style-type: none">読み返す視点として、次のことを確認できるよう掲示する。 ① 誤字脱字がないか。 ② 句読点はついているか。 ③ 学習した漢字が使えているか。各自が書いた文章が1年生に分かりやすく、正しい表現になっているか考えながら聞くことができるよう、聞く時の視点を掲示する。話し合ったことをもとに、文章を書き直すことができるようにする。
10.	<ul style="list-style-type: none">ロイロノート・スクールに遊び方の順序（カード）に合わせた画像をとり、場面ごとの説明文の音声を録音しスライドを完成させる。完成したものを全員で共有する。		<ul style="list-style-type: none">説明文の構成メモで、順序を確認し、内容にあった画像が撮影できるようにする。聞き取りやすい声の大きさ、話す速さに気を付けながら録音できるよう、読むときの視点を掲示する。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する ■学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	○ 子どもが体験した遊びの様子を動画で見ることで、あそび方の手順を短い言葉に置き換えて説明する手がかりとする。

(1) 目標

- おもちゃの遊び方について、1年生が楽しく遊ぶための順序を説明する文や構成を考えることができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 1年生がおもちゃで楽しく遊べるように、あそび方の順序を書いたカードを、選択したり整理したりすることを通して、説明の仕方や文の構成を話し合う。
見方・考え方	○ おもちゃの遊び方の説明について、伝える相手を意識し、楽しく遊ぶための順序や分かりやすい言葉の使い方に着目して捉える。 ○ 遊び方について、どのような内容をどのような順序に並べるとよいか、1年生に伝わる説明になるよう思考する。
言語活動	○ 1年生が楽しめるように、自分が遊んだ経験に基づいて、遊び方を説明する事柄、表現の仕方、構成を考えて話し合う。

(3) 展開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導入	○ おもちゃの遊び方を振り返り、本時の課題をつかむ。	◎遊びの様子を動画で見ることで本時の学習課題に意欲をもって取り組むことができるようにする。 ・学習の順序を掲示し、見通しをもって活動が進められるようにする。	電子黒板 授業用PC	【主体的に学習に取り組む態度】 ・既習事項を確認することで見通しをもって課題に取り組む意欲を持っている。 (行動観察)
どのようにせつ明すれば、1年生につたわるのだろうか。				

展 開	<p>○ 各班で、遊び方の説明内容を話し合う。</p> <p>《役割分担》</p> <p>① 司会</p> <p>② タブレット端末</p> <p>③ カード操作</p> <p>④ 新規カード作成</p>	<p>☆各自準備したカードをまなボードに並べることで、1年生が楽しく遊べる順序を確認しやすくする。</p> <p>☆カードの整理の仕方（まとめる、とる、加える、並び替える等）、話し合いの仕方を掲示し、いつでも確認できるようにする。</p> <p>◇新たなカードも準備し、短い言葉でまとめることもできるようにする。</p> <p>◎遊びの様子を動画で振り返ることによって、カードの並べ方を思考しやすくする。</p> <p>◇役割分担を示し、話し合いが円滑に進むよう支援する。</p>	<p>電子黒板</p> <p>タブレット端末</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい表記の仕方カードを準備している。 文章中の語や文について間違いを正することができる。（行動観察、カード） <p>【思考・判断・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明の構成を確かめながらカードの内容と照らし合わせて並び替えようとしている。（行動観察） 相手を意識した内容になるよう語や文を考えている。（行動観察）
ま と め	<p>○ 完成したカードをもとに、班で動画を再度確認したり動作化したりして確かめる。</p>	<p>◇全員の意見が出そろったところで、文章構成の全体を見直すよう支援する。</p> <p>☆話し合ったカードの順番と言葉に合わせて動作化することで、1年生に分かる構成メモになっているか確認しやすくする。</p>	<p>電子黒板</p> <p>タブレット端末</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の班の良いところ、参考にしたいところを探し出そうとしている。（行動観察） <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の活動を振り返ろうとしている。（アンケート）

1年生に分かりやすい言葉をつかっているか、動画を見ながら確かめてみましょう。

(4) 板書計画

あそび方をせつ明しよう

めあて どのゲームをせつ明すれば、一年生にわたるのだろうか。

○じゅんじょよくならべる

・かさねる

・まとめる

・とる

○話し合いのしかた

・自分の考えをつたえる。

・あいての話をうけとめる。

- やくわし
①司会
②タフレット
③カード
④書く

まとめ

一年生にわたるゲームはきつかなう。

はじめ、中、終わら、ふりかえり、振り返り

あそびのやり方をふりかえり。



はじめ 中 終わら

③ ② ①



ほかの人のいことを聞いて



ふりかえり

アンケート

第3学年 国語科 学習指導案

授業者 坂井 敦子 石本 慎二

1 学年・組 第3学年1組 33名

2 場 所 3年1組教室

3 単 元 名 「モチモチの木」

4 目 標

○ 叙述をもとに、登場人物の考えていることを想像して読むことができる。

○ 読み取ったことをもとに、豆太がどんな人物なのかを想像して豆太に手紙を書くことができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して読み、話や文章の中で使っている。	「読むこと」において、叙述をもとに登場人物の考えていることを想像している。 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	これまでの学習を生かして、叙述をもとに登場人物の考えていることを想像し、書いたり話したりしようとしている。

6 指導計画（全 10 時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<p>お気に入りの文をえらんで書き、学習の見通しをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習課題を確認する。 ・ 全文を通読した後、初発の感想として、お気に入りの文を選んで書き抜き、その理由も書く。（デジタルワークシート①） ・ 並行読書をしていくことを知る。 ・ 単元の最後に、豆太がどんな人物なのかを想像して豆太に手紙を書くことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルワークシートに記入することで、次時のグループでの話し合いに備えることができるようにする。
	2	<p>お気に入りの文とえらんだ理由を発表し、学習計画を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・ グループで話し合う。（フリートーク）（デジタルワークシート①） ・ 全体で話し合う。（相互指名）（デジタルワークシート①） ・ 学習計画を知る。（紙の学習計画表）（教室掲示用学習計画表） ・ 振り返りシートを書く。（紙のワークシート①） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルワークシートをグループ内で送る合うことで、共有できるようにする。 ・ それぞれが選んだお気に入りの文を板書することで、どの文を気に入っているかを確認できるようにする。 ・ 記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。

2	3	<div>場面分けをして、物語のあらすじをとらえよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・場面分け（一場面～五場面）を教科書の本文において行う。 ・場面ごとに、物語のあらすじを考えて書く。（紙のワークシート②） ・全体で話し合う。（相互指名） ・振り返りシートを書く。（紙のワークシート③） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」を表すキーワードを確認できるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。
	4	<div>一場面　じさまとせっちんに行く豆太は何を考えているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ・じさまとせっちんに行く豆太が考えていることを想像して書く。<u>豆太メーター①</u> （デジタルワークシート②） <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。（フリートーク）（デジタルワークシート②） ・全体で話し合う。（相互指名）<u>豆太メーター②</u> （デジタルワークシート②） <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを書く。（紙のワークシート④） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ・根拠（理由）となる叙述やさし絵に印をつけることで、豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。 ・「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。 ・できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。 ・デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ・互いに質問し合うことで、疑問点を解消し、思考を深めることができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。
	5	<div>二場面　夜のモチモチの木を見る豆太は何を考えているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ・夜のモチモチの木を見る豆太が考えていることを想像して書く。<u>豆太メーター①</u> （デジタルワークシート③） <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。（フリートーク）（デジタルワークシート③） ・全体で話し合う。（相互指名）<u>豆太メーター②</u> （デジタルワークシート③） <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを書く。（紙のワークシート⑤） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ・根拠（理由）となる叙述やさし絵に印をつけることで、豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。 ・「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。 ・できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。 ・デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ・互いに質問し合うことで、疑問点を解消し、思考を深めることができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。

2	6	<div>三場面 ふとんにもぐりこむ豆太は何を考えているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ・ふとんにもぐりこむ豆太が考えていることを想像して書く。<u>豆太メーター①</u> (デジタルワークシート④) ・グループで話し合う。(フリートーク) (デジタルワークシート④) ・全体で話し合う。(相互指名) <u>豆太メーター②</u> (デジタルワークシート④) ・振り返りシートを書く。 (紙のワークシート⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ・根拠(理由)となる叙述やさし絵に印をつけることで、豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。 ・「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。 ・できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。 ・デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ・互いに質問し合うことで、疑問点を解消し、思考を深めることができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。
	7 (本時)	<div>四場面 医者様をよびに行く豆太は何を考えているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ・医者様を呼びに行く豆太が考えていることを想像して書く。<u>豆太メーター①</u> (デジタルワークシート⑤) ・グループで話し合う。(フリートーク) (デジタルワークシート⑤) ・全体で話し合う。(相互指名) <u>豆太メーター②</u> (デジタルワークシート⑤) ・振り返りシートを書く。 (紙のワークシート⑦) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ・根拠(理由)となる叙述やさし絵に印をつけることで、豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。 ・「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。 ・できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。 ・デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ・互いに質問し合うことで、疑問点を解消し、思考を深めることができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。

2	8	<div data-bbox="427 107 1228 165" data-label="Text"> <p>五場面 じさまの話を聞く豆太は何を考えているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ・じさまの話を聞く豆太が考えていることを想像して書く。豆太メーター① (デジタルワークシート⑥) ・グループで話し合う。(フリートーク) (デジタルワークシート⑥) ・全体で話し合う。(相互指名)豆太メーター② (デジタルワークシート⑥) ・振り返りシートを書く。 (紙のワークシート⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ・根拠(理由)となる叙述やさし絵に印をつけることで、豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。 ・「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。 ・できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。 ・デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ・互いに質問し合うことで、疑問点を解消し、思考を深めることができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。
3	9・10	<div data-bbox="416 884 1246 943" data-label="Text"> <p>豆太がどんな人物なのかを想そうして、豆太に手紙を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・豆太がどんな人物なのかを想像して、豆太に手紙を書く。(紙のワークシート⑨) ・ペアで文章の推敲をし、間違いがないかを確認する。 ・全体で発表会をする。 ・振り返りシートを書く。 (紙のワークシート⑩) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの掲示物を見て振り返りができるようにする。 ・今までに学習したことを思い出すことで、豆太がどんな人物なのかを想像しながら手紙を書くことができるようにする。 ・記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する ■学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	□電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 ■その他(授業用PC・大型モニター)
活用コンテンツ等	○ ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	○ デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。 ○ デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。 ○ 「豆太メーター」を活用することで、自分の立場を明確にして他者と比較できるようにする。

(1) 目標

- 医者様を呼びに行く豆太が考えていることを想像して読むことができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 医者様を呼びに行く豆太が考えていることや、「豆太メーター」の「勇気」と「おくびょう」の度合を表す丸の数の根拠について話し合う。
見方・考え方	○ 医者様を呼びに行く豆太が考えていることを想像するために、根拠となる叙述やさし絵に着目して捉える。 ○ 豆太が考えていることや「豆太メーター」をもとに、場面ごとの変化に気づいたり、他者の意見と比較し疑問点について質問したりすることにより、思考を深める。
言語活動	○ 互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる。

(3) 展開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導入	○ 前時までを振り返る。 (一～三場面)		大型モニター	【主体的に学習に取り組む態度】 ・前時までの学習を振り返り、本時に生かそうとしている。 (行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本時の学習課題を確認している。 (発言)
	○ 本時の学習課題を確認する。	◎デジタル教科書を提示することで、学習場面の確認ができるようにする。	授業用PC	
	四場面 医者様をよびに行く豆太は何を考えているのだろう。			

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由読みをし、登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を確認する。 ○ 医者様を呼びに行く豆太が考えていることを想像して書く。 <p>・「豆太メーター①」に色をぬり、帽子をかぶる。 (デジタルワークシート⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合う。 (フリートーク) (デジタルワークシート⑤) <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体で話し合う。 (相互指名) 	<p>☆根拠(理由)となる叙述やさし絵に印をつけることで、医者様を呼びに行く豆太が考えていることを想像する際の手がかりにできるようにする。</p> <p>☆「豆太メーター」の数を決めることで、豆太の「勇気」と「おくびょう」の度合を数値化できるようにする。</p> <p>◎「豆太メーター」や「かぶっている帽子の色」などを活用することで、自分の立場を明確にして友達と比較できるようにする。</p> <p>◇できるだけ違う色の帽子をかぶった人とグループになるために席を移動させることで、話し合いが深められるようにする。</p> <p>◎デジタルワークシートをグループ内で送り合うことで、共有できるようにする。</p> <p>◇発言している人のデジタルワークシートを見ることで、よりの確に相手の話を聞くことができるようにする。</p>	<div>大型モニター</div> <div>授業用PC</div> <div>タブレット端末</div>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述をもとに登場人物の考えていることを想像している。 <p>(ロイロノート・スクール)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆太の「勇気」と「おくびょう」の度合を考えている。 <p>(ロイロノート・スクール)</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して読み、話や文章の中で使っている。 <p>(発言・ロイロノート・スクール)</p>
	<p>モチモチの木に灯がついているさし絵を見て、どんなことが分かりますか。</p> <p>・「豆太メーター②」に色をぬり、帽子を確認する。 (デジタルワークシート⑤)</p>	<p>◇すでに発表した人の意見に対して、「〇〇さんと同じで」「付け足して」「似ていて」「違って」「理由は同じで」の話型を使うことで、立場を明確にすることができるようにする。</p> <p>◇相互指名をする際にハンドサインを目安にすることで、話し合いをスムーズに進めることができるようにする。</p>		
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りシートを書く。 (紙のワークシート⑦) 	<p>◎記入前の振り返りシートを提示することで、振り返り方を確認できるようにする。</p>	<div>大型モニター</div> <div>授業用PC</div>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し合い」と「学習内容」について振り返っている。 <p>(振り返りシート)</p>

モチモチの木 四場面

めあて 医者様をよびに行く豆太は何を考えているのだろう。

□ 早く医者様にみてもらわなくては、じさまが死んでしまう。

□ 足がいたいなあ、夜は寒くてこわいなあ。

□ 夜はこわいけど、大すきなじさまが死ぬほうがもっとこわい。

「豆太メーター」ぼうしの色

勇気●●（赤ぼう）

勇気●おくびょう○（黄ぼう）

おくびょう○○（白ぼう）

学習のながれ

- 1 今までのふりかえり
- 2 めあて
- 3 自由読み
- 4 デジタルワークシート記入

豆太メーター①

ぼうしをかぶる。

ざせきのいどう

- 5 グループの人に送る
- 6 グループで話し合い
- 7 ぜん体で話し合い

豆太メーター②

ぼうしのかくにん

- 8 ふりかえりシート記入
- 9 ふりかえり発表

大型モニター

	投影内容
導 入	デジタル教科書
展 開	デジタル教科書 デジタルワークシート (テンプレート) デジタル教科書
まとめ	振り返りシート (テンプレート)

勇気	<input type="text"/>	<input type="text"/>	おくびょう
勇気	<input type="text"/>	<input type="text"/>	おくびょう



名前
モチモチの木 四場面

<div>医者様をよびに行く豆太は、</div>	<div>豆太が考えていることについて話し合い、分かったこと「思ったこと」を書きましよう。</div>	<div>話し合いのふりかえり</div> <div>自分の考えを書けた</div> <div>話し合って、自分の考えをたしかめたり、かえたりすることができた</div> <div>自分の考えを言えた</div> <div>友だちの考えを聞けた</div> <div>しつもんだり、答えたりすることができた</div>	モチモチの木 七時間目ふりかえりシート 名前 ()
		<div>四場面(めあて) 医者様をよびに行く豆太は何を考えているのだろう。</div>	

第4学年 社会科 学習指導案

授業者 山田 真衣 木村 英子

- 1 学年・組 第4学年1組 38名
- 2 場 所 4年1組教室
- 3 単 元 名 「自然災害から命とくらしを守る」
- 4 目 標
 - 自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した大阪府内の自然災害や、関係機関の協力体制などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめることができる。
 - 自然災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関の人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。
 - 主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、日ごろから必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>大阪府内で自然災害が発生した際には、府や市、警察署や消防署、消防団などの関係機関や地域の人々が協力して、自然災害から人々の安全を守るために活動していることを理解している。</p> <p>市役所、区役所、警察署や消防署、消防団などの関係機関と地域の人々は、過去の自然災害の発生状況などを踏まえ、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをして、自然災害から人々を守る活動を行っていることを理解している。</p> <p>自然災害から地域の安全を守る活動について、市役所や区役所、地域の防災組織などの関係者から聞き取り調査をしたり、地図や年表や資料などで調べたりして、必要な情報を集めたり読み取ったりして、まとめている。</p>	<p>様々な関係機関が協力して自然災害の被害を減らすために努力してきたことと、人々の生活を関連付けて考えている。</p> <p>これからの災害に備えて市役所や区役所などが防災対策を考えたり、地域の人々とともに取り組みを進めたりしていることから、災害から人々を守る活動の働きを考え、それが人々の安心や安全にどのようにつながっているかを考えている。</p> <p>災害が起きたときに、自分自身の安全を守るための行動を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりしている。</p>	<p>自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を見直したり振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>自然災害から地域の安全を守る活動について、聞き取り調査や資料などから、必要な情報を主体的に集めようとしている。</p> <p>学習したことをもとに、地域で起こり得る災害を想定し、日ごろから必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。</p>

6 指導計画（全15時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府では起こった自然災害の写真を見て学習の見通しを持つ。 ・自然災害について調べてみたいと思ったことをノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で写真を提示し、大阪府で起こった自然災害について知ること、自然災害についての興味・関心や学習への意欲を持てるようにする。

1			<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族や、阿倍野区の人々を守るためにどのような取り組みがあるのかを調べ、伝えることで、学習への意欲につなげる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 風水害や地震が起きたときの映像を見たり、地震や津波、高潮の起こり方について調べたりして、学習計画を立てる。 <div> <ul style="list-style-type: none"> 高潮でどんな被害があったのだろう。 南海トラフ巨大地震が起こればどんな被害が出るのだろう。 水防団はどんなことをしているのだろう。 風水害を防ぐためにどんな工夫をしているのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害を知らない子どもが多いと考えられるので、津波・高潮ステーションの映像、NHK for school の動画クリップ（台風が引き起こすさまざまな被害、地震の多い国日本、津波とふつうの波のちがい）を見せることで、どのようなものか知ることができるようにする。 教科書や「津波・高潮ステーション」のホームページを活用し、地震や津波、高潮の起こり方について調べ、疑問に思ったことやもっと調べてみたいと思ったことから学習計画を立てることができるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府で起こった風水害の被害について調べ、今と比べると昔は被害が大きかったことに気づき、その理由について考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年表の中の被害を種類ごとに色分けしたり、被害者数や被害戸数、田畑の被害面積などに印をつけたりして調べることで、何度も風水害で大きな被害があったことに、気づくことができるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府の地形と水害との関わりについて調べ、水害が多い理由について考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の資料を比較したり、分類したり、共通点を見つけたりして読み取ることで、大阪府の土地が低いことから、水害が多いことに気づくことができるようにする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 三大台風による高潮被害と、それらに対して大阪府・市が行った対策について調べ、その対策を今の暮らしと関連させて考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> もれや欠けがない防潮堤や防潮扉などの対策を知り、今の自分たちの安全な暮らしにつながっていることに気づくことで、高潮対策の効果について捉えられるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 台風や高潮などの災害が起きたときの関係機関や水防団の働きについて調べ、水防団の人々の工夫や努力について考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の相互の協力体制や、「自分の地域は自分で守る」という水防団の思いを知り、水防団の意義について考えることで、関係機関や水防団の活動が人々の安心や安全につながっていることに気づくことができるようにする。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ巨大地震について知り、それらに備えて行われている取り組みを調べ、なぜそのような取り組みをしているのかについて考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国や大阪府や大阪市の被害を減らすための取り組みについて調べることで、それが人々の安心や安全につながっていることに気づくことができるようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害が起きたときの人々の働きについて調べ、関係機関が協力体制をとっていることについて考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守るために地域防災計画にしたがって、関係機関が協力するなど、大阪府や大阪府が計画的に取り組んでいることを知ること、地域防災計画が、人々の安心や安全につながっていることに気づくことができるようにする。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災リーダーの働きについて調べ、この仕組みが作られた理由について考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災リーダーの活動やできた理由を知ること、自然災害に対しては「自助」「共助」が大切であることや地域防災リーダーの活動が、人々の安心や安全につながっていることに気づくことができるようにする。

2	<p>10 11 12 13</p> <p>14 (本時)</p>	<p>・「あべっこ防災プロジェクト」として、阿倍野区の自然災害に対する取り組みについて、資料やインターネットで調べたり、関係機関に質問したりして、情報を収集する。</p> <div data-bbox="336 327 868 1099"> <p>〈あべっこ防災プロジェクト〉</p> <p>その1 阿倍野区の自然災害に対する取り組みを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿倍野区の地形や今までの被害について ・風水害の対策について ・地震、津波の対策について ・避難所や備蓄物資、日ごろの備えについて ・地域防災リーダーの活動について <p>その2 調べたことを防災ハンドブックにまとめよう。</p> <p>その3 防災ハンドブックにまとめたことを伝えよう。</p> <p>その4 災害に備えて自分にできることを考えよう。</p> </div> <p>・阿倍野区の取り組みをグループで話し合い、ロイロノート・スクールのカードにまとめる。</p> <p>・カードを「自助」「共助」「公助」に分ける。</p>	<p>・阿倍野区の取り組みについて調べたいことをテーマごとに分けることで、グループごとに調べられるようにする。</p> <p>・資料やインターネットだけでなく、区役所やあべのタスカル、地域防災リーダーなどの関係機関に手紙やメール、電話、オンラインなどで質問をすることで、情報を収集できるようにする。</p> <p>・人々の安心や安全の観点を提示することで、調べたり質問したりする内容を選択することができるようにする。</p> <p>・インターネットで調べる場合は、資料箱にあるサイトのみを活用させることで、信頼できる情報を収集できるようにする。</p> <p>・調べたことに対して、阿倍野区はどのような取り組みをしているのか資料を元に話し合うことで、その理由も考えられるようにする。</p> <p>・集めた情報を、ロイロノート・スクールを活用することで、書いたカードをグループで共有できるようにする。</p> <p>・ロイロノート・スクールの共有ノートを使うことで、グループでカードの内容を確認しやすくする。</p> <p>・電子黒板に、前時までに調べた資料を提示することで、全体で活動の内容を振り返り、本時の意欲へとつなげる。</p> <p>・ロイロノート・スクールを活用し、「自助（黄色）」「共助（ピンク）」「公助（緑色）」に色分けすることで、全体を見たときに視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・ロイロノート・スクールの提出箱を活用し、回答共有することで、他の班がどのような分け方をしたのかを詳しく見られるようにする。</p> <p>・カードを電子黒板に提示することで、意見が分かれているカードを全体で共有できるようにする。</p>
---	---	--	--

	15	<ul style="list-style-type: none"> 阿倍野区の「公助」「共助」について考える。 自然災害が起きた時に、自分にできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公助」は阿倍野区がホームページや配布物などで人々に知らせたり、避難所を作ったりしていること、「共助」は地域防災リーダーを中心とした地域の人と人の支え合いであることに気づくことで、自分たちの地域の「共助」「公助」の取り組みに気づき、「自助」への意識につなげられるようにする。 自然災害が起きたときに、自分自身の安全を守る行動や、災害に備えて自分にできることを考えることで、防災への意識をさらに高められるようにする。
3	16 17	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに調べたことをまとめて、「あべっこ防災ハンドブック」を作り、クラスのなかまや3年生に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことをまとめるときは、クラスのなかまや3年生に伝えることを意識することで、わかりやすくまとめられるようにする。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	<input type="radio"/> 電子黒板に、前時までに調べた資料を提示することで、全体で活動の内容を振り返り、本時の意欲へとつなげる。 <input type="radio"/> ロイロノート・スクールを活用し、「自助（黄色）」「共助（ピンク）」「公助（緑色）」に色分けすることで、全体を見たときに視覚的に捉えられるようにする。 <input type="radio"/> ロイロノート・スクールの提出箱を活用し、回答共有することで、他の班がどのような分け方をしたのかを詳しく見られるようにする。 <input type="radio"/> カードを電子黒板に提示することで、意見が分かれているカードを全体で共有できるようにする。

(1) 目標

- 自然災害に対する阿倍野区の取り組みについて調べたことを「自助」「共助」「公助」に分け、災害から人々を守るために自分たちの地域でも関係機関が協力していることを理解することができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 阿倍野区の「公助」「共助」について話し合い、考えをまとめる。
見方・考え方	○ 阿倍野区の取り組みに着目して、関係機関が協力し合うことが人々の安心や安全につながっていることを捉える。 ○ 学習したことと阿倍野区の取り組みを関係付けて、自然災害から人々を守る活動について思考する。
言語活動	○ 理由や根拠を明確にしながら、話し合う。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 「あべっこ防災プロジェクト」として、阿倍野区の自然災害に対する取り組みを調べてきたことを確認する。	◎電子黒板に、前時までに調べた資料を提示することで、全体で活動の内容を振り返り、本時の意欲へとつなげる。	電子黒板 授業用PC	【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 (行動観察)
	わたしたちの身近には、どのような「自助」「共助」「公助」の取り組みがあるのだろう。			
展 開	○ ロイロノート・スクールの共有ノートに、各班が調べた阿倍野区の取り組みを集め、話し合いながら「自助」「共助」「公助」に分ける。	☆防災の考え方として大切な視点（自助・共助・公助）を振り返り、阿倍野区の取り組みを分けられるようにする。 ◎ロイロノート・スクールを活用し、「自助（黄色）」「共助（ピンク）」「公助（緑色）」に色分けすることで、全体を見たときに視覚的に捉えられるようにする。 ◇「これは、○○だから公助になる」「これは、△△だから共助になる」というように、理由や根拠を明確にして話すことができるようにする。	電子黒板 授業用PC タブレット端末	【知識・技能】 ・カードに書かれた情報を読み取り、自然災害から人々を守る活動を行っていることを理解している。 (行動観察・ロイロノート・スクール)
	○自分の班と他の班の分け方を比べる。 ○カードの分け方を確認する。	☆自分の班と他の班の分け方を比べることで、考えを比較できるようにする。 ◎ロイロノート・スクールの提出箱を活用し、回答共有することで、他の班がどのような分け方をしたのかを詳しく見られるようにする。 ☆色の分け方において意見が分かれているカードをピックアップし、「自助」「共助」「公助」のどれにあたるかを全体で確認する。 ◎カードを電子黒板に提示することで、意見が分かれているカードを全体で共有できるようにする。	電子黒板 授業用PC タブレット端末	

展 開	<p>阿倍野区の「共助」「公助」には、どのような特徴があるのだろう。</p> <p>○ グループで話し合い、考えを全体で交流する。</p>	<p>☆「共助」は地域防災リーダーを中心とした地域の人と人の支え合い、「公助」は阿倍野区がホームページや配布物などで人々に知らせたり、避難所を作ったりしていることであることに気付けるようにする。</p> <p>☆どの機関も単独で動いているのではなく協力していること、「共助」「公助」の取り組みが阿倍野区でも行われていて、それが人々の安心や安全につながっていることに気づけるようにする。</p> <p>◇カードの内容から共通点を見つけ、理由や根拠を明確にして話すことができるようにする。</p>	<p>電子黒板</p> <p>授業用PC</p> <p>タブレット端末</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害から人々を守る活動が、人々の安心や安全につながっていることを考えている。 <p>（行動観察・話し合い）</p>
ま と め	<p>○ 学習を振り返る。</p>	<p>☆「共助」や「公助」のよさについて考えたことで、阿倍野区でも安心・安全のために、関係機関が協力しながら様々な「共助」や「公助」の取り組みが行われていることを理解することができるようにする。</p> <p>☆「共助」「公助」の取り組みだけで安心・安全なのかを投げかけることで、次時で「自助」について考えることにつなげる。</p>		<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が協力し合い、自然災害による被害から人々を守る活動を行っていることを理解している。

(4) 板書計画

<p>めあて わたしたちの身近には、どのような「自助」「共助」「公助」の取り組みがあるのだろう。</p>									
<p>電子黒板</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>投影内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導 入</td><td>・各班が調べた阿倍野区の取り組み。</td></tr> <tr> <td>展 開</td><td>・学習の流れ ・児童のロイロノート</td></tr> <tr> <td>まとめ</td><td>・児童のロイロノート</td></tr> </tbody> </table>		投影内容	導 入	・各班が調べた阿倍野区の取り組み。	展 開	・学習の流れ ・児童のロイロノート	まとめ	・児童のロイロノート	<p>協力し合っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共助」 地域防災リーダーを中心として、地域の人と人とが支え合っている。 ・「公助」 阿倍野区がホームページや配布物などで人々に知らせている。 避難所を作っている。 <p>まとめ</p> <p>「公助」「共助」の取り組みは、どちらも大切。なぜなら、協力し合うことで、人々の安心で安全なくらしにつながるから。</p>
	投影内容								
導 入	・各班が調べた阿倍野区の取り組み。								
展 開	・学習の流れ ・児童のロイロノート								
まとめ	・児童のロイロノート								

第5学年 音楽科（プログラミング学習） 学習指導案

授業者 垣成 崇雄

- 1 学年・組 第5学年1組 27名
- 2 場 所 5年1組教室
- 3 単 元 名 「日本の音楽に親しもう」
- 4 目 標

- 音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりを理解して、日本の旋律の音階を用いてまとまりのある音楽をつくることができる。
- 音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりについて考え、それらが生み出す曲や演奏のよさなどを見出しながら曲全体を味わって聴いたり、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した旋律をつくったりすることができる。
- 日本の様々な音楽に興味・関心をもち、日本の音楽の特徴を味わったり、それを生かした旋律づくりをしたりする学習に意欲的に取り組むことができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりを理解している。 日本の音階を使った旋律のつくり方や、旋律の組み合わせ方を理解し、プログラミングソフト（Scratch）を活用して、まとまりのある旋律をつくっている。	箏と尺八の音色の美しさ、旋律の特徴やちがいを聴き取ることを通して、曲や演奏のよさを見出している。 日本の音階や旋律の特徴を生かして、旋律の組み合わせ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	日本の音楽に興味・関心をもち、日本の楽器の音色や歌い継がれてきた歌を味わって聴いたり、日本の音階を使って旋律をつくったりする活動に主体的に取り組もうとしている。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な日本の音楽について話し合う。 「下校するときのようすや気持ち」を想起して、Scratch で「下校放送」をテーマに旋律づくりをする。 つくった旋律を聴き合ったり、これまでの音楽づくりの経験をふり返ったりすることで、単元の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲「さくらさくら」や本校の下校放送に使用されている「ゆうやけこやけ」を取り上げ、曲の特徴について考える。 旋律づくりを体験することで、「イメージ通りの旋律をつくりたい」「日本の音楽を形づくるひみつを知りたい」という意欲を高め、「日本の音楽の特徴を学習した後に下校放送をつくる」という単元の見通しがもてるようにする。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 日本の楽器のひびきと旋律の美しさを味わいながら「春の海」を聴く。 「春の海」は、日本の風景をイメージしながら作曲されたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞用 DVD を視聴することで、箏と尺八の音色に親しみがもてるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の旋律の美しさを味わいながら「子もり歌」を歌う。 律音階と都節音階の「子もり歌」を聴き、それぞれの旋律の感じを比較する。 Scratch でつくった律音階の「子もり歌」を都節音階につくり変える。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ指導者がつくった Scratch のデータを活用して、児童が都節音階の旋律につくり変えられるようにする。 使われている音階の音が少し違うだけで曲のイメージが変わることに気付くことができるようにする。

	4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の特徴を感じ取りながら、日本の民謡を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使って日本の民謡を調べられるようにするために、ロイロノート・スクールにデータを共有しておく。
2	5	<ul style="list-style-type: none"> 日本の旋律の特徴やまとまりのある組み合わせ方のポイントについてまとめる。 3人1組のグループになり、「どんなイメージの下校放送にするか」について話し合う。また、「音の上がり下がり」「反復」など音楽の仕組みをどのように用いて表現するか、使う音階についてもグループで話し合っておく。 自分たちの考える理想の下校放送のイメージを、「計画表」としてロイロノート・スクールのカードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School の動画クリップ（今日の図形楽譜「さくら さくら」）を視聴することで、日本の旋律の特徴について理解をより深める。 NHK for School「音楽ブラボー」（“せんりつづくり”はこわくない）を視聴することで、まとまりのある組み合わせ方について振り返ることができるようにする。 言葉だけでなく、写真やイラストを活用してイメージを共有できるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> Scratch を使って4分の4拍子で2小節の旋律を個人でつくる。 次時の準備として、ロイロノート・スクールで「旋律カード」をつくる。 個人が Scratch でつくった旋律のデータを、グループの代表1台のタブレット端末に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する児童への手立てとして、あらかじめ指導者がつくった Scratch の旋律を複数用意しておき、そこから選択してつくり変えられるようにしておく。
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> まとまりのある組み合わせ方のポイントをもとに、前時に個人でつくった旋律をグループで組み合わせて、8小節の旋律をつくる。 イメージが伝わるような旋律になっているか確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末は、グループで3台（Scratch 用・計画表用・旋律カード用）使用する。 前時につくった「旋律カード」を活用して話し合うことで、話し合いのポイントが視覚的にわかりやすくなるようにする。 つくった旋律を他のグループの友だちに聴いてもらうことで、自分たちのイメージが伝わるような旋律になっているか確かめられるようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 完成した旋律をロイロノート・スクールのカードに録音する。 全グループの旋律を聴き、「自分のお気に入りの下校放送」を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律のイメージ（言葉・写真やイラスト）と完成した旋律の音を挿入したカードを、ロイロノート・スクールの提出箱に集める。その提出箱を回答共有することで、全グループの旋律を聴くことができるようにする。
3	9	<ul style="list-style-type: none"> つくった旋律をグループごとに楽器を使って演奏したり、Scratch の機能を使って表現の仕方を工夫したりする。 日本の音楽の特徴やよさについて考えたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> つくった旋律を、楽器を使って演奏したり、Scratch の機能を使って表現の仕方を工夫したりすることで、創作した旋律がより味わい深いものになるようにする。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他 ()
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他 ()
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(スピーカー)
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> Scratch <input type="checkbox"/> ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> Scratchを活用することで、音楽づくりや楽器の演奏に不安がある児童にも取り組みやすいようにする。 <input type="checkbox"/> ロイロノート・スクールでつくった「旋律カード」を活用することで、並べ替えが容易になり、話し合いの過程を可視化することができるようにする。 <input type="checkbox"/> Scratchのデータを改良し、イメージに合うように変更できたか、実際に音を聞いて確認できるようにする。 <input type="checkbox"/> ロイロノート・スクールの提出箱を活用して、友だちの書いた感想をいつでも見られるようにしておく。

(1) 目標

- つくった旋律をグループで組み合わせる活動を通して、日本の音階や旋律の特徴に気づき、自分たちが理想とする下校放送をつくることができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 自分たちのつくった旋律の特徴に気づき、グループでまとまりのある旋律に組み合わせるためにはどうすればよいかについて話し合う。
見方・考え方	○ 日本の音階が生み出すよさや面白さに着目して旋律を捉える。 ○ 音の上がり下がりやリズム、つなぐ音を工夫し、まとまりのある旋律の組み合わせ方について思考する。
言語活動	○ 収集した知識や情報を関係付けながら、まとまりのある旋律になっているか話し合う。 ○ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導入	○ 前時までの学習を想起する。	◎ Scratch を活用することで、音楽づくりや楽器の演奏に不安がある児童にも取り組みやすいようにする。	電子黒板 タブレット 端末	
	○ 本時の学習目標を確認する。			
展開	イメージに合った旋律をつくるには、どのように旋律を組み合わせるとよいのだろうか。			
	○ まとまりのある組み合わせ方のポイントを確認する。	☆◇ まとまりのある組み合わせ方のポイントをホワイトボードに提示することで、グループでの話し合いに生かせるようにする。	タブレット 端末	【思考・判断・表現】 ・日本の音階や旋律の特徴を生かして、旋律の組み合わせ方を工夫している。 (話し合い・行動観察)
	○ それぞれがつくった旋律の特徴を生かしたり、改良したりしながら、グループで8小節の旋律をつくる。	◎ ロイロノート・スクールでつくった「旋律カード」を活用することで、並べ替えが容易になり、話し合いの過程を可視化することができるようにする。 ◎ Scratch のデータを改良し、イメージに合うように変更できたか、実際に音を聴いて確認できるようにする。		
	初めて聴く人にも、イメージが伝わるような旋律になっているのだろうか。			
	○ 自分たちのイメージに合った旋律ができたかを確かめるために、他のグループの友だちに旋律を聴いてもらう。	◇ どんなイメージでつくったかは伏せておき、旋律を聴いて感じたイメージを付箋に書いて伝える。	スピーカー 電子黒板	
○ 友だちからの意見をもとに、旋律を完成させる。	◎ Scratch のデータを改良し、イメージに合うように変更できたか、実際に音を聞いて確認できるようにする。			
○ 完成した旋律を発表する。 (1～2グループを指名)	◇ 電子黒板には、タブレット端末(旋律カード用)をつなぎ、どのような話し合いをして、どこを工夫したかを発表できるようにする。			
まとめ	○ 本時の学習を振り返り、ロイロノート・スクールの「振り返りカード」にまとめる。	◎ ロイロノート・スクールの提出箱を活用して、友だちの書いた感想をいつでも見られるようにしておく。	タブレット 端末	【知識・技能】 ・イメージに合った旋律のつくり方や、旋律の組み合わせ方を理解している。 (発表・振り返りカード)
	○ 次時の見通しをもつ。	☆ 次時では、全グループの旋律を聴き合い、お気に入りの旋律を選んだり、自分たちのつくった旋律のよさをさらに味わったりすることを伝えておく。		





(4) 板書計画

めあて イメージに合った旋律をつくるには、どのように旋律を組み合わせるとよいのだろうか。

電子黒板

	投影内容
導 入	・児童がつくった Scratch の画面
展 開	・「旋律カード」の活用の仕方（ロイロノート・スクール）
まとめ	・振り返りカード（ロイロノート・スクール）

つくる時のポイント

イメージ	A 明るい 楽しい わくわく ルンルン	B おだやか 優しい ゆったり ゆっくり
使う音	ド レ ファ ソ ラ	ド ミ ファ ラ シ
山	山をつくる・急に上がる	なだらか・だんだん下がる
音の高さ	高い音を多く使う	低い音を多く使う
音の長さ	 (8分音符)  (16分音符)	 (2分音符)  (4分音符)

組み合わせる時のポイント

- ①山（音の上がり下がり）
- ②小節をつなぐ音
- ③反復

振り返り

第6学年 算数科 学習指導案

授業者 別所 英文

1 学年・組 第6学年1組 33名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 「データの特ちょうを調べて判断しよう」

4 目 標

- 目的に応じてデータを集めて分類整理し、適切なグラフに表したり、代表値などを求めたりするとともに、統計的な問題解決の方法について知ることができる。
- データのもつ特徴や傾向を把握し、問題に対して自分なりの結論を出したり、その結論の妥当性について批判的に考察したりすることができる。
- 統計的な問題解決のよさに気づき、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとすることができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>代表値の意味や求め方を理解している。</p> <p>度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。</p> <p>目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ろうとしている。</p>	<p>目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察している。</p>	<p>統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。</p>

6 指導計画（全14時間）

次 時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数学習で行う。 ・デジタル教科書を活用することで、ドットプロットや度数分布表・柱状グラフに整理する方法を知り、散らばりの様子を視覚的にとらえることができるようにする。 ・ロイロノート・スクールの資料箱にドットプロットや度数分布表を置いておくことで、タブレット端末上でも作成でき、考えの共有をしやすいとする。
	2	
	3	
	4	

	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「柱状グラフ（ヒストグラム）」について知り、3クラスのデータを柱状グラフに表し、読む。 ・柱状グラフは、散らばりの様子をまとめるのに便利であることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelを活用することで、デジタルで簡単に柱状グラフを作成することができるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「中央値」について知り、3クラスの中央値を求める。 ・中央値を求めて比べる方法があることについてまとめる。 ・「代表値」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールを活用することで、個人の考えを共有し、話し合いを活発に行うことができるようにする。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラスのデータを学習してきたことを基に表に整理し、どのクラスが優勝するかについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らそれぞれのデータ処理を理解し、特徴をわかりやすくまとめることで、情報処理やグラフに表すことのよさを実感することができるようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かし、データから読み取れる各クラスのよいところを見つけて、それぞれのクラスに賞をつくる。 	
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の少子化・高齢化についての複数のグラフを見て、既習事項を生かして、それぞれのグラフからわかることの違いを考えながら、読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省統計局 HP「なるほど統計学園」のいろいろな統計データを活用し、日常の問題を解決する意識を高めるようにする。
3	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活に目を向け、「校内アンケートの結果から、自分たちの『強み』と『課題』を見つけよう」という学習課題を捉える。 ・校内アンケートのデータを処理・分析し、結論をまとめる。 ・自分たちの学習意欲が低いことから、「学習意欲を高めるためには何を改善すればよいのだろう」という問題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールを活用し、個のタブレット端末に1学期の校内アンケートの結果を配信することで、自分たちでデータを処理・分析できるようにする。 ・自分のクラスのアンケート結果と他の学年のアンケート結果を比較することで、より課題に気づくことができるようにする。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲と関連するさまざまな資料を調べ、「学習意欲を高めること」につながる「生活習慣」を見つけ出す。 ・各班で調べる「生活習慣」を決め、計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間 ・就寝時間 ・起床時間 ・朝食 ・発言回数 ・スマートフォンの使用時間 ・ゲームの使用時間 ・宿題 ・学習時間 ・読書時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」「天理市教育委員会『基礎学力の充実と学習意欲を高める取組の推進』」のデータを活用し、グラフ等の資料を読み取ることで、「学習意欲を高めること」につながる「生活習慣」があることに気づくことができるようにする。
	(課外)	<ul style="list-style-type: none"> ・データを各班で収集し、ドットプロットや度数分布表、柱状グラフ等に分類整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート・スクールのアンケート機能を活用することで、必要なデータを簡単に収集・集約できるようにする。 ・ドットプロット図をロイロノート・スクールの資料箱に置いておくことで、効率よく整理できるようにする。 ・Excelを活用させることで、グラフを簡単に作成できるようにする。

12 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ドットプロットや度数分布表、柱状グラフ等に分類整理したデータを分析し、問題の結論を導き出しまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノート・スクールを活用し、できた資料を班で共有することで、話し合いを活発に行えるようにする。 ロイロノート・スクールを活用し、資料に補足を入れることで、他の班のメンバーに内容を伝えやすくする。 「問題⇒計画⇒データ⇒分析⇒結論」のプロセスを実体験することで、日常生活に関する事柄を問題解決できることに気づくことができるようにする。
13	<ul style="list-style-type: none"> 各班の結論を共有し、自分の生活を見直すための考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノート・スクールを活用し、資料に補足を入れることで、他の班のメンバーに内容を伝えやすくする。 ロイロノート・スクールの提出箱を活用することで、各班の問題の結論を総合的に見て、自分の考えを深められるようにする。
14	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> navima（デジタルドリル）を活用することで、学習内容を自分のペースに合わせて自力解決できるようにする。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業用PC)
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	<input type="radio"/> 電子黒板に統計的な問題解決のプロセス図を提示することで、前時までの学習活動を振り返り、本時の活動の見通しが立てられるようにする。 <input type="radio"/> ロイロノート・スクールを活用し、できた資料を班で共有することで、話し合いを活発に行えるようにする。 <input type="radio"/> ロイロノート・スクールを活用し、資料に補足を入れることで、他の班のメンバーに内容を伝えやすくする。

(1) 目 標

- 生活を見直すための問題に対するデータを分析し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	○ 生活を見直すためのデータを分析し、問題の結論について話し合う。
見方・考え方	○ データの傾向や特徴に着目して、判断の根拠を捉える。 ○ 目的に応じてデータを分類整理し、問題の結論とその根拠について思考する。
言語活動	○ 意図を明確にしながら話し合い、考えを広げる。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 自分たちが設定した問題「学習意欲を高めるためには、何を改善すればよいのだろう」と解決のために調べた「生活習慣」について再確認し、本時の課題をつかむ。	◎電子黒板に統計的な問題解決のプロセス図を提示することで、前時までの学習活動を振り返り、本時の活動の見通しが立てられるようにする。	電子黒板 授業用PC	
集めたデータを分析すると、どのような結論が導き出されるのだろう。				
展 開	○ 各班で分類整理したドットプロットや度数分布表、柱状グラフ等からデータを分析する。 〈比べる方法〉 <ul style="list-style-type: none">・平均値 ・最頻値・中央値 ・グラフの形・散らばりの様子	◎ロイロノート・スクールを活用し、できた資料を班で共有することで、話し合いを活発に行えるようにする。 ☆既習の内容を生かし、データの特徴から、「読み取れること」「無関係なこと」を区別して捉えさせる。 ◇自分の考えを伝える際に理由や根拠を明確にして伝えることで、相手の理解が深まるようにする。	タブレット端末	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none">・目的に応じて、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて分析している。 (話し合い) (ロイロノート・スクール)
	○ 分析結果を再度、ドットプロットや度数分布表、柱状グラフなどの資料を総合的に見て、結論とその根拠を考える。	◎ロイロノート・スクールを活用し、できた資料を班で共有することで、話し合いを活発に行えるようにする。 ☆既習の統計的な方法を活用して、収集した資料から「結論の根拠として言えること」を捉えさせ、問題解決ができるようにする。 ◇自分の考えを伝える際に理由や根拠を明確にして伝えることで、相手の理解が深まるようにする。		【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none">・データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断している。 (話し合い) (ロイロノート・スクール)

まとめ	○ 問題に対する自分たちの班の結論をまとめる。	◎ロイロノート・スクールを活用し、資料に補足を入れることで、他の班のメンバーに内容を伝えやすくする。 ☆「問題⇒計画⇒データ⇒分析⇒結論」のプロセスを実体験することで、日常生活に関する事柄を問題解決できるとに気づくことができるようにする。	<div>電子黒板</div> <div>タブレット端末</div> <div>授業用PC</div>
-----	-------------------------	--	---

(4) 板書計画

めあて 集めたデータを分析すると、どのような結論が導き出されるのだろう。

電子黒板

	投影内容
導 入	・統計的な問題解決のサイクル図
展 開	・各班の共有ノート（グラフやドットプロット）
まとめ	・各班から提出されているグラフやドットプロット

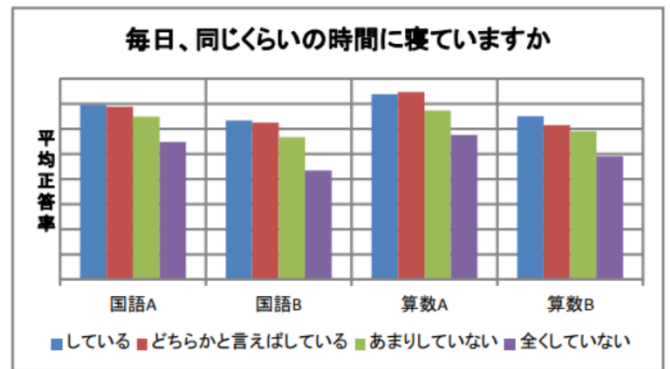
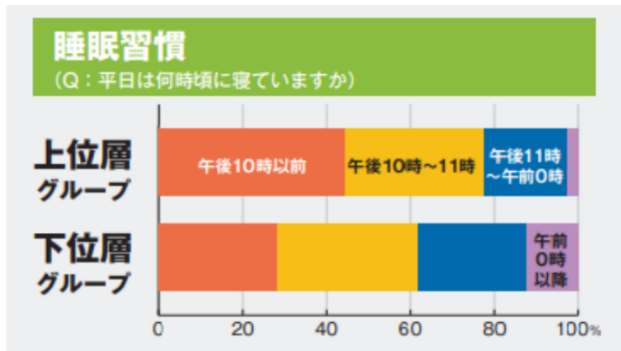
視点 「読み取れること」「無関係なこと」

結論（根拠）

- ・睡眠時間をきちんと確保する。
（6～8 時間の睡眠時間がある人ほど、平均点が高いが、クラスではばらつきがある。）
- ・スマートフォン、ゲームの時間を 1 時間以内にする。
（使用時間が 1 時間未満であるほど、学力が高い人が多いが、クラスでは 1 時間以上使っている人が多い）
- ・読書時間を増やす。
（毎日、読書を 30 分以上している人ほど、学力が高いが、クラスでは 30 分未満が多い。）

【子どもたちに提示した資料】

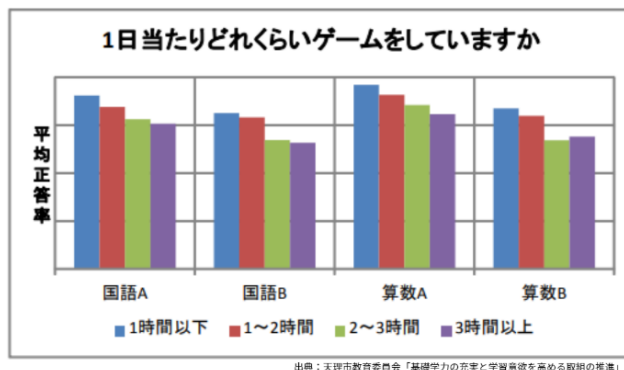
○睡眠時間



出典：天理市教育委員会「基礎学力の充実と学習意欲を高める取組の推進」

出典：学習意欲の科学的に関するプロジェクト平成24年度版リーフレット

○ゲームの時間



出典：天理市教育委員会「基礎学力の充実と学習意欲を高める取組の推進」

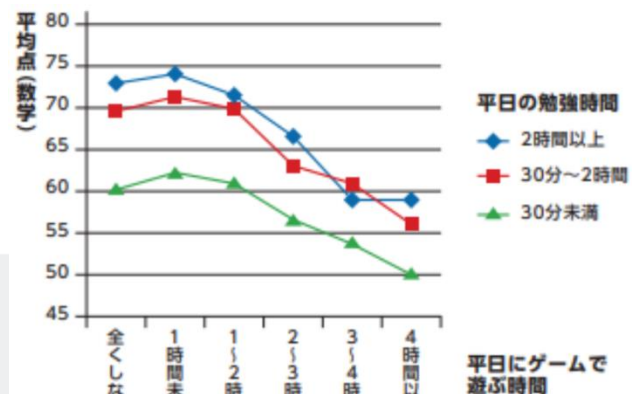
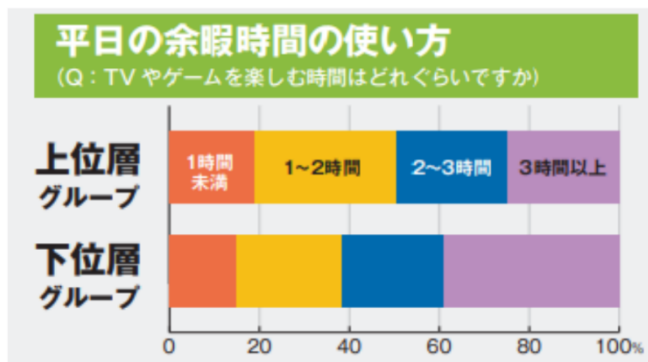


図5 ゲーム時間ごとに見た数学の平均点

出典：「学習意欲の科学的に関するプロジェクト」中学生向けニュース

出典：学習意欲の科学的に関するプロジェクト平成24年度版リーフレット

○スマートフォンの使用時間

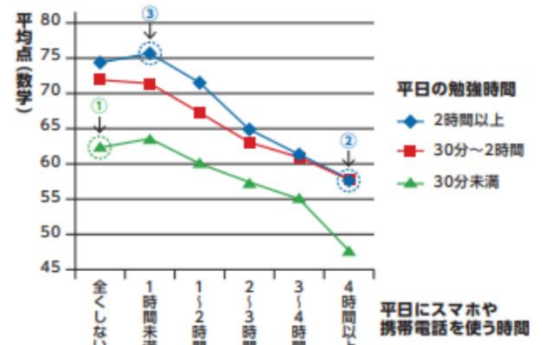
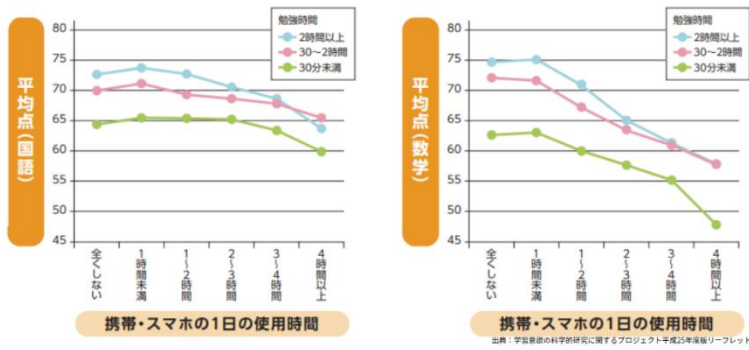
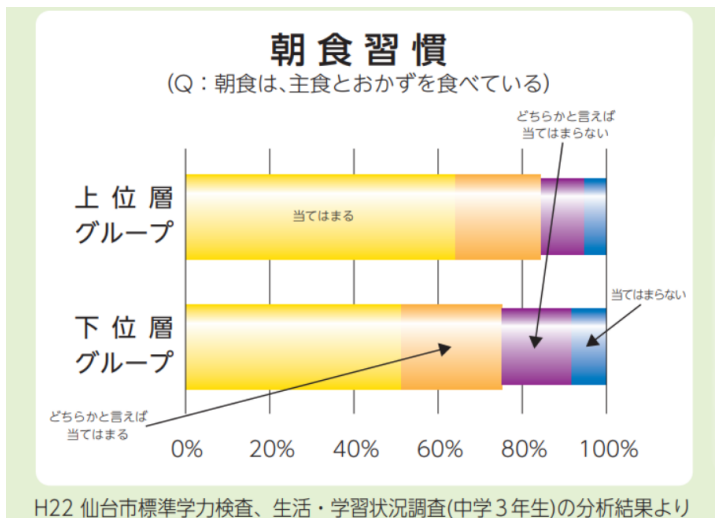
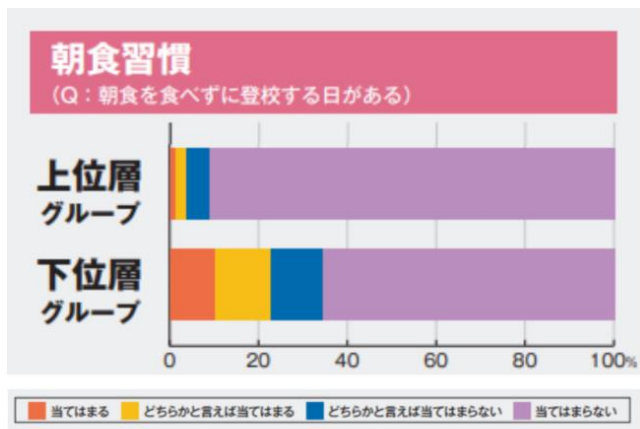
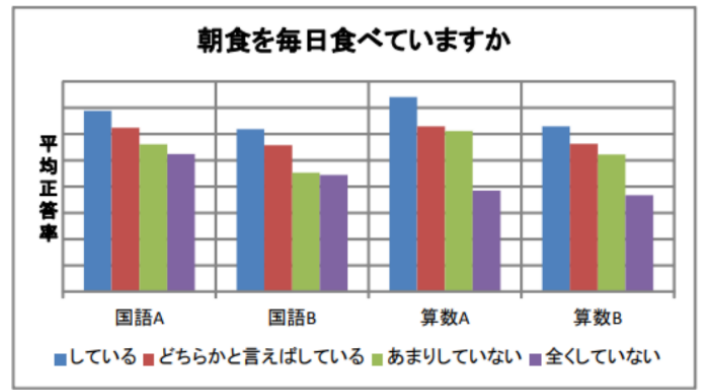
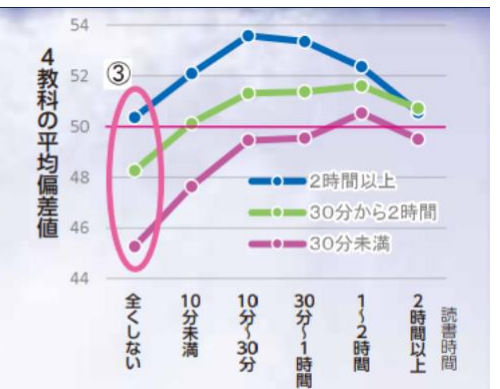
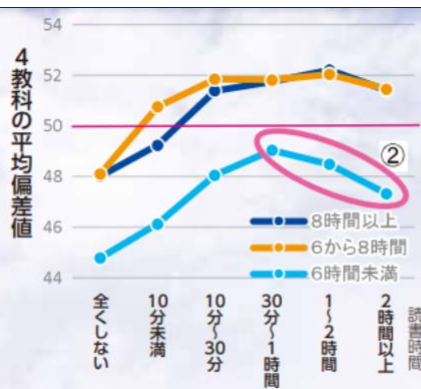
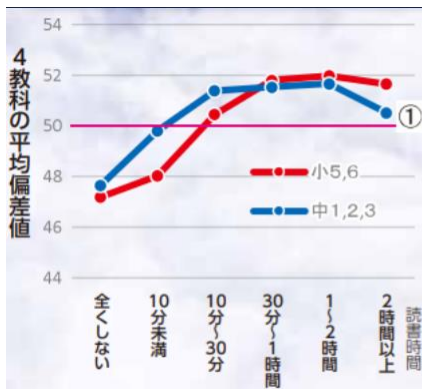


図2 スマホや携帯電話を使う時間ごとに見た数学の平均点

○朝食習慣



○読書時間



特別支援学級 生活単元学習 学習指導案

授業者 黄本 幸

- 1 学年・組 特別支援学級（第5学年） 5名
- 2 場 所 多目的室
- 3 単 元 名 「クラスの友だちにがんばったことを知らせよう」
- 4 目 標
 - 自分が頑張ったと思うことやできるようになったことを書き、伝え合う活動を通して相手に伝わるようなスライドを作ることができる。
 - 自分が頑張ったと思うことやできるようになったことについて考えたり、友だちのスライドをよりよいものにするために助言したりすることができる。
 - 相手意識をもって意欲的にスライドを作ることができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分が頑張ったと思うことやできるようになったことについて、相手に分かりやすく書いて読みだしている。	自分が頑張ったと思うことやできるようになったことについて、順序を考え、簡単な文で表現しようとしている。 友だちのスライドの内容を捉え、よいところや改善した方がよいと思うところを判断し伝えようとしている。	相手意識をもってスライドを作る中で、自分の思いや考えを言葉で伝え合うよさを感じ、意欲的に取り組んでいる。

6 指導計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	活動のポイント
1	1	・クラスの友だちに自分が頑張ったと思うことやできるようになったことをプレゼンテーションで伝えるために、発表したい内容を Y チャートにまとめ、どんな写真や動画を使いたいかを考える。	・Y チャートを使うことで、発表したい内容や資料を整理しやすくする。
	2	・発表原稿を考える。	・発表したい内容をまとめていくために、Y チャートをもとに発表原稿を作る。
	3	・発表する内容をスライドにまとめる。	・ロイロノート・スクール上で、文字や写真・動画を活用したスライドを作成する。
	4 (本時)	・スライドの内容について話し合う。	・スライドを電子黒板に提示することで、実際に視覚的に分かりやすく伝えられているのかを検討する。
	5	・発表の練習をする。	・自信を持って伝えられるようにするために、スライドに合わせて発表原稿を読む練習をする。
2	6	・クラスの友だちに発表し、感想を聞く。	・感想を聞くことで、自己肯定感を高められるようにする。

7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> ロイロノート・スクール
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> 作成したスライドを電子黒板に提示することで、実際の伝わり方を体感できるようにする。 <input type="checkbox"/> ロイロノート・スクールを活用することで、作ったスライドを容易に手直ししたり、友だちの助言で変更したりできるようにする。

(1) 目標

- ☐ グループの友だちと話し合いながら、クラスの友だちに伝わりやすいスライドを作ることができる。

(2) 協働的な学び

協働の場面	<input type="checkbox"/> 内容が伝わりやすいスライドにする方法について話し合う。
見方・考え方	<input type="checkbox"/> 文字の大きさや色、写真や動画に着目して、スライドが相手にとって伝わりやすいものになっているかを捉える。 <input type="checkbox"/> 自分や友だちの作ったスライドを比較して、相手に分かりやすく伝える方法について思考する。
言語活動	<input type="checkbox"/> 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを書く。 <input type="checkbox"/> 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや助言を受け止め考え直したりする。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに作っていたスライドについて想起する。 ○ 指導者の作ったスライドについて、意見を出し合う。 	◎指導者が作ったスライドを電子黒板に提示することで、どのような視点で見ればよいか分かりやすくする。	<div>電子黒板</div> <div>タブレット端末</div>	【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲的に活動に参加している。 （行動観察）
伝わりやすいスライドを作るには、どうしたらよいのだろう。				
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに作っていたスライドを見合い、相互評価（１回目）をする。 	◎子どもたちがロイロノート・スクールで作ったスライドを電子黒板に提示することで、比較しやすくする。 ☆ワークシートを使って友だちにスライドの評価を伝えることで、全員が視点を確認しやすくする。 ◇ワークシートに記入することで、友だちのスライドに関心をもち、全員が自分の思いや考えを友だちに伝えられるようにする。	<div>電子黒板</div> <div>タブレット端末</div>	【思考・判断・表現】 ・友だちのスライドの内容を捉え、よいところや改善した方がよいと思うところを判断している。 （ワークシート）
	友だちのどんな意見が自分のスライドに活かそうかな。			
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ２つのグループに分かれ、友だちから教えてもらったことを活かしてスライドがよくなるように話し合い、改善していく。 	◎ロイロノート・スクールを活用することで、個人で作ったスライドをグループで共有できるようにする。 ☆グループになって見合うことで、スライドを比較しやすくし、分かりやすく伝える方法を意識できるようにする。 ◇少人数で話し合うことで、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりしやすくする。 ◎改善したスライドを電子黒板に提示して確認することで、伝わり方を確認しやすくする。		【思考・判断・表現】 ・自分のスライドの内容を改善し、友だちのスライドの内容を伝わりやすくしようとしている。 （スライド・話し合い）
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改善したスライドを全体で交流し、相互評価（２回目）をする。 ○ 次時に発表の練習を確認する。 	◎スライドを電子黒板に提示することで、全体で共有しやすくする。	<div>電子黒板</div> <div>タブレット端末</div>	【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の思いや考えを言葉で伝え合うよさを感じ、意欲的に取り組んでいる。 （行動観察）

(4) 板書計画

クラスの友だちにがんばったことを知らせよう

㊦ 伝わりやすいスライドを作るには、どうしたらよいのだろう。

電子黒板

	投影内容
導 入	・指導者が作成したスライド
展 開	・スライド
まとめ	・スライド

今日の流れ

- ①先生のスライドを見る。
- ②自分たちのスライドを見る。
- ③発表名人への道（1回目）
- ④グループに分かれてレベルアップ
- ⑤完成したスライドを見合う。
- ⑥発表名人への道（2回目）

発表名人への道

- ①文字
- ②色
- ③写真・動画

ワークシート

発表名人への道

☆ 先生や友だちのスライドを見て、☀️😊 のどちらかに○をつけましょう。

	1 回目	2 回目
先生	☀️😊	☀️😊
さん	☀️😊	☀️😊
さん	☀️😊	☀️😊
さん	☀️😊	☀️😊
さん	☀️😊	☀️😊
さん	☀️😊	☀️😊

名前（ ）

2021 abeno ICT

Thanks to All the People involved...

